TOA

ソフトウェア
取扱説明書

デジタルスピーカープロセッサー

DP-SP3

このたびは、TOA デジタルスピーカープロセッサーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこのソフトウェア取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

TOA株式会社

目　次

DP-SP3 PC ソフトウェアの概要 4

特　長 4

パソコンの推奨環境 4

ソフトウェアのインストール 5
- インストールのしかた 5
- アンインストールするとき 8

ソフトウェアを起動する 9
- スタートメニューから起動するとき 9
- ショートカットから起動するとき 9

メイン画面とメニューの概要 10
- メイン画面 10
- メニューの概要 10

機器構成の設定 13
- ユニットの作成 13
- ユニットの削除 17
- クロスオーバー・コンビネーションの変更 17
- クロスオーバー・スロープの変更 17
- 名称設定 17
- ユニットをテンプレートとして保存 17
- クロスオーバー設定をテンプレートとして保存 17

ユニットの操作 18
- ユニットビュー 18
- プリセットビュー 19
- フロービュー 20
- コンテンツビュー 21
- レスポンスビュー 36
- プリセットメモリー 39
- レベルモニタビュー 42
- ミュートビュー 43

プリセット G の使いかた 45

通　信 48
- DP-SP3 本体との通信の接続設定方法 48

WEB ブラウザーでのスピーカーパラメーター設定 57
- スピーカーパラメーターの設定のしかた 57

ユーザーレベルと禁止設定 65
ユーザーレベルを有効にする 65
ユーザーレベルを有効にしたときのログオンのしかた 66
禁止設定 67

機器のミュートスイッチロック ON/OFF 設定 69

設定データを印刷する 70

接点入力端子 71
概 要 71
接点入力設定画面の説明 71
接点入力への機能の割り付け 73
端子に割り付ける機能一覧表 76

DP-SP3 PC ソフトウェアの概要

本ソフトウェアはデジタルスピーカープロセッサー DP-SP3 に対して、コンプレッサー機能、フィルター機能など音響信号処理機能のパラメーターを設定するための専用ソフトウェアです。下記の仕様に合ったパソコンにインストールしてお使いください。

特　長

- 本ソフトウェアで 1 台のパソコンから DP-SP3 を最大 4 台まで制御することができます。
- DP-SP3 本体からは、本体の状態の表示や電源の ON/OFF とミュート機能の操作はできますが、その他の本体の操作や設定、状態の表示などは、本ソフトウェアで行います。

パソコンの推奨環境

以下の仕様に合ったパソコンにインストールしてお使いください。

ハードウェア条件	
CPU	1.0 GHz、Intel Pentium 4 以上
メモリー	Windows XP の場合 512 MB 以上、それ以外では 1.0 GB 以上
ディスプレイ	1024 × 768 以上の解像度で表示可能なディスプレイ
ハードディスク	16 MB 以上の空き容量 ただし、.NET Framework 未インストールの場合は、32 ビット版では 600 MB 以上、64 ビット版では 1.5GB 以上
光学ドライブ	CD-ROM ドライブまたは CD/DVD マルチドライブ
LAN	10BASE-T 以上
ソフトウェア条件	
OS	Windows XP Service Pack 3 以降、32/64 ビット版 Windows Vista SP1 以降、32/64 ビット版 Windows 7 ※ 検証済み OS Windows XP Service Pack 3（Home Edition、Professional） 32 ビット版 Windows Vista Service Pack 2（Business） 64 ビット版 Windows Vista Service Pack 2（Business） 32 ビット版 Windows 7（Professional） 64 ビット版 Windows 7（Professional）
必須コンポーネント	.NET Framework 4 Client Profile（未インストールの場合にはインターネットへの接続環境が必要）

※ Pentium は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
※ Windows および Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
※ その他の会社名および製品名も各社の商標です。

ソフトウェアのインストール

■ インストールのしかた

インストールを開始する前に、すべてのアプリケーションを終了してください。
インストールは、次の手順で行います。

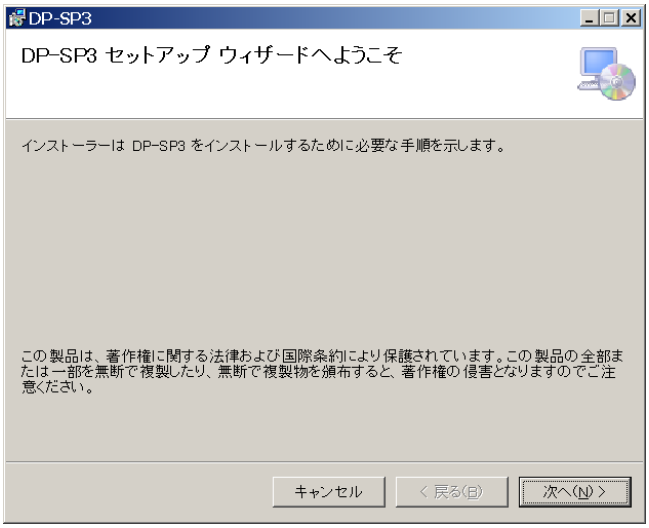
1 付属の CD をパソコンのドライブに挿入する。

2 「エクスプローラ」または「マイコンピュータ」から CD ドライブを開く。
「English」フォルダーや「Japanese」フォルダーなどが表示されます。

3 「Japanese」フォルダーを開く。

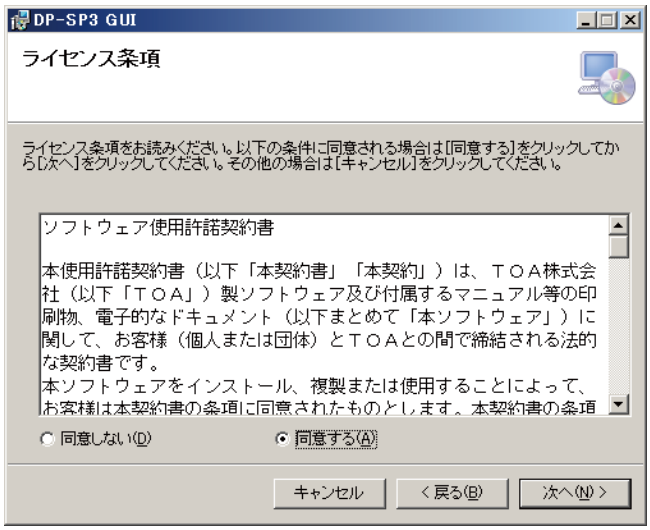
4 「DP-SP3_Software」フォルダーを開く。

5 [setup.exe] をダブルクリックする。
次のウィンドウが表示されます。



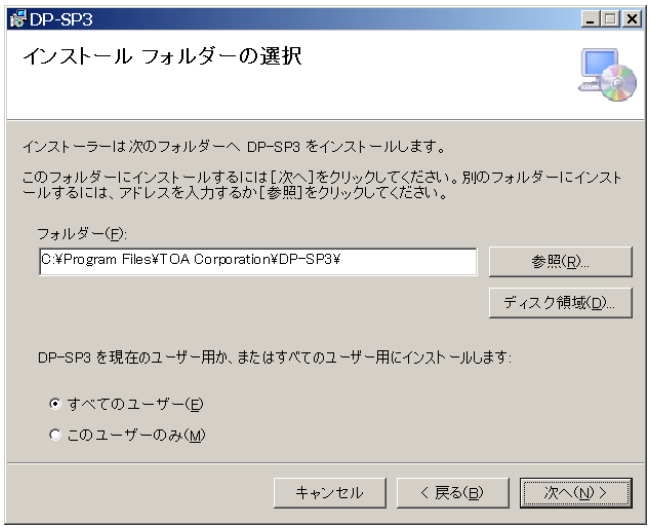
6 ［次へ］ボタンをクリックする。

次のウィンドウが表示されます。
ウィンドウ内の内容を確認し、ライセンス条項に「同意する」または「同意しない」を選択してください。
「同意する」を選択すると、［次へ］ボタンがクリックできるようになります。



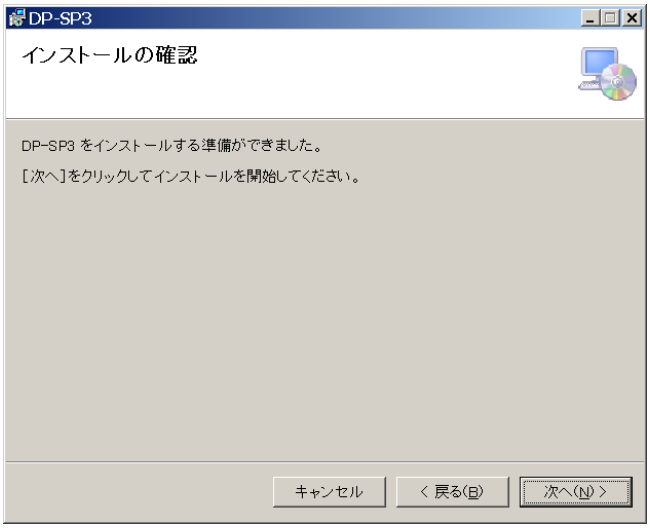
7 ウィンドウ内の内容を確認した上で、［次へ］ボタンをクリックする。

次のウィンドウが表示されます。



8 必要に応じてインストール先のフォルダを変更し、［次へ］ボタンをクリックする。

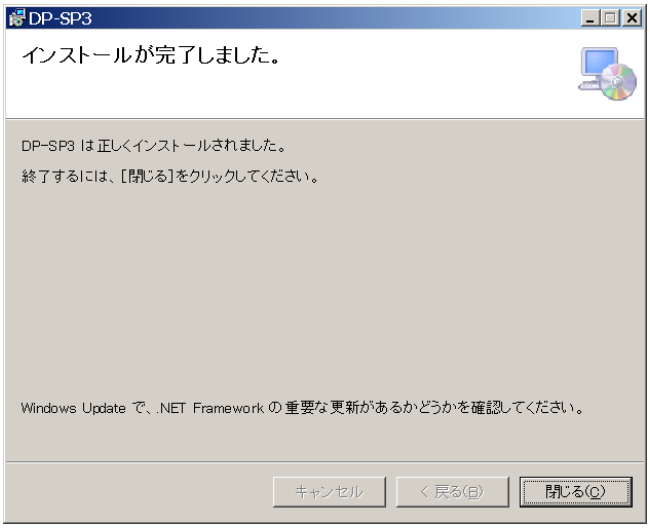
次のウィンドウが表示されます。



9 画面の指示に従ってインストールする。

メ　モ

パソコンに .NET Framework がインストールされていない場合は、画面の指示に従って操作すると .NET Framework もインストールできます。



10 インストールが完了したら、［閉じる］ボタンをクリックする。

DP-SP3 GUI 実行プログラムのショートカットが、パソコンのスタートメニューに登録されます。

■ アンインストールするとき

1 **デスクトップ画面のスタートボタンをクリックし、［設定（S）→ コントロールパネル（C)］を選択する。**

「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **次のアイコンをダブルクリックする。**

- Windows Vista、Windows 7 の場合 ：「プログラムと機能」
- Windows XP の場合 ：「プログラムの追加と削除」

現在インストールされているプログラムが表示されます。

3 **「DP-SP3 GUI」を選択する。**

4 **次のボタンをクリックし、ソフトウェアをアンインストールする。**

- Windows Vista、Windows 7 の場合 ：「アンインストール」
- Windows XP の場合 ：「削除」

ソフトウェアを起動する

インストールが完了した DP-SP3 PC ソフトウェアを起動するには、次の 2 つの方法があります。

■ スタートメニューから起動するとき

DP-SP3 PC ソフトウェアをスタートメニューから起動することができます。

デスクトップ画面のスタートボタンをクリックし、
［プログラム（P）→ TOA Digital Audio Control → DP-SP3 GUI］を選択して、起動します。

■ ショートカットから起動するとき

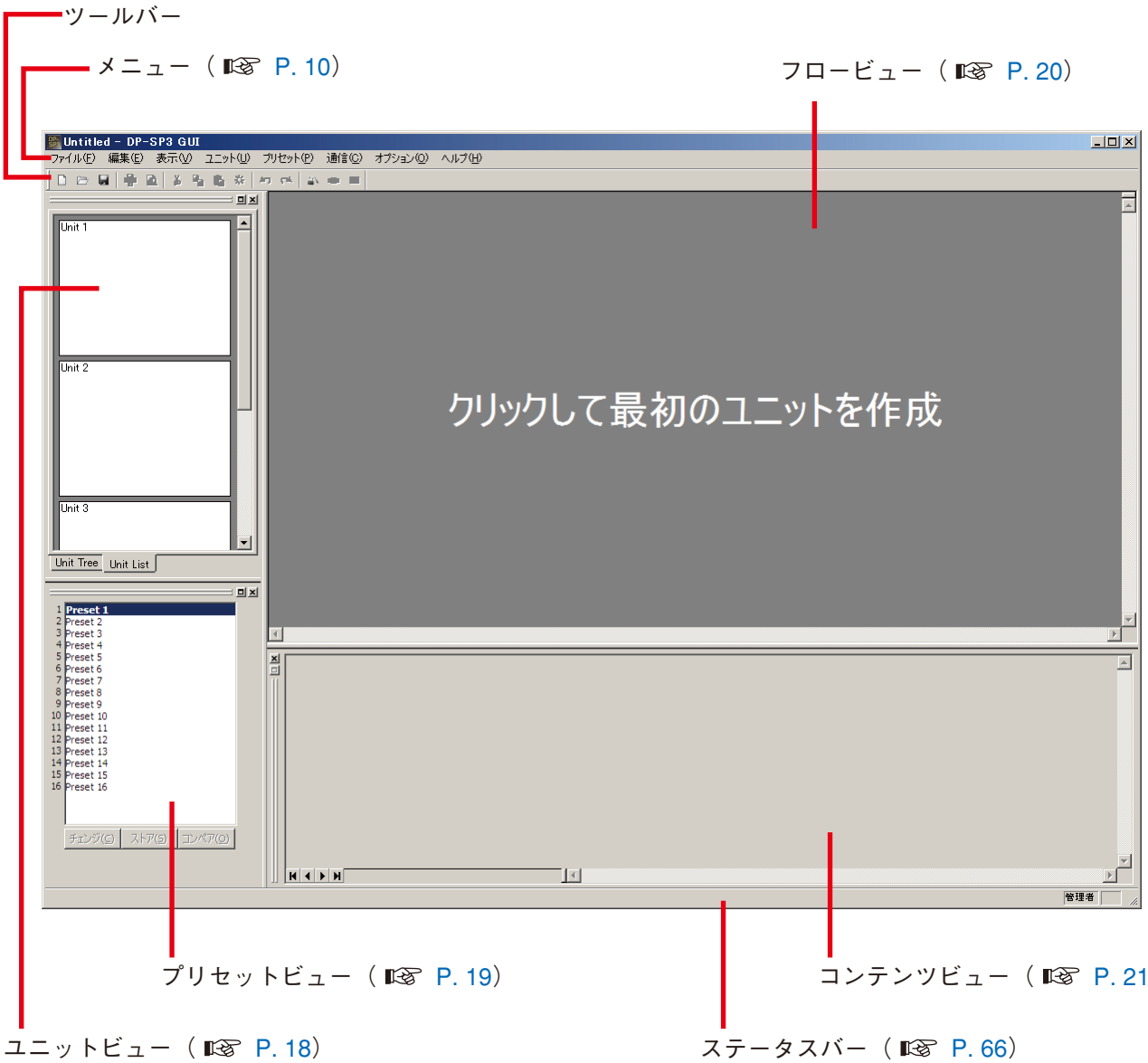
インストール完了後、デスクトップ上に作成されるショートカットアイコンを

ダブルクリックして起動することができます。

メイン画面とメニューの概要

■ メイン画面

DP-SP3 PC ソフトウェアを起動すると、メイン画面が表示されます。



■ メニューの概要

※（ ）内はショートカットキーを表します。

● ファイル（F）

新規作成（N）	：新たに設定ファイルを作成（設定）します。
開く（O）	：既存の設定ファイルを呼び出します。
上書き保存（S）	：作業中の設定ファイルを更新します。
名前をつけて保存（A）	：作業中の設定ファイルを別名で保存します。
印刷設定（U）	：余白を変更します。
印刷（P）	：作業中の設定ファイルを印刷します。
印刷プレビュー（V）	：作業中の設定ファイルを印刷時のイメージで表示します。
アプリケーションの終了（X）	：プログラムを終了します。

● 編集（E）

元に戻す（U）　：直前に行った変更を元に戻します。
やり直し（R）　：直前に戻された動作をやり直します。
切り取り（T）　：指定したボックスの設定値をクリップボードにコピーした後に設定値を初期化します。
コピー（C）　：指定したボックスの設定値をクリップボードにコピーします。
貼り付け（P）　：指定したボックスに、クリップボードのデータを貼り付けます。
初期値（L）　：ボックスの設定値を初期化します。
グルーピング設定（G）　：ボックスのグルーピング設定を行います。
グルーピング解除（R）　：ボックスのグルーピング設定を解除します。
ボックスの書き込み保護（W）
　→ Off　：ボックスへの書き込みを制限しません。
　→ Low　：オペレーターによるボックスのパラメーター変更を禁止します。
　→ Mid　：オペレーターによるボックスの変更をすべて禁止します。
　→ High　：管理者によるボックスのパラメーター変更およびオペレーターによるすべての変更を禁止します。

● 表示（V）

ツールバー（T）　：ツールバーの表示、非表示を切り換えます。
ステータスバー（S）　：ステータスバーの表示、非表示を切り換えます。
ユニットビュー（U）　：ユニットビューの表示、非表示を切り換えます。
コンテンツビュー（C）　：コンテンツビューの表示、非表示を切り換えます。
レスポンスビュー（R）　：レスポンスビュー（☞ P. 36）の表示、非表示を切り換えます。
プリセットビュー（P）
　→ 表示／非表示（S）　：プリセットビューの表示、非表示を切り換えます。
　→ フローティング（F）　：プリセットビューをフローティング表示します。
　→ ドッキング（D）　：プリセットビューをドッキング表示します。
ミュートビュー（A）
　→ 表示／非表示（S）　：ミュートビュー（☞ P. 43）の表示、非表示を切り換えます。
　→ フローティング（F）　：ミュートビューをフローティング表示します。
　→ ドッキング（D）　：ミュートビューをドッキング表示します。
レベルモニタービュー（L）　：レベルモニタービュー（☞ P. 42）の表示、非表示を切り換えます。

● ユニット（U）

新規作成（N）...　：ユニットを新規に作成します。
　：ただし、最初のユニットはメイン画面でフロービュー画面をクリックして作成します。
削除（D）　：ユニットを設定データから削除します。
クロスオーバーの変更（X）
　→ コンビネーション（C）...　：クロスオーバーのコンビネーションを変更します。
　→ スロープ（S）...　：クロスオーバーのスロープを変更します。
フィルターのスプリット（S）...　：出力段フィルターボックスの分割設定を変更します。
名称設定（M）...　：ユニットおよび入出力の名称を変更します。
テンプレートとして保存（T）
　→ ユニットのテンプレート（U）...　：機器構成の設定をテンプレートとして保存します。
　→ クロスオーバーのテンプレート（X）...　：クロスオーバーの設定をテンプレートとして保存します。
入力 PAD 設定（P）...　：ユニット本体の入力感度を変更します。

● プリセット（P）

チェンジ（C）
　→ Preset 1 ～ 16　：16 個のプリセットメモリーから呼び出します。
ストア（S）
　→ Preset 1 ～ 16　：設定状態を 16 個のプリセットメモリーのいずれかに書き込みます。
名称設定（M）...　：プリセットメモリーの名称を変更します。
プリセット連動元設定（W）　：M-864D または他の DP-SP3（マスター機器）がプリセットメモリーを切り換えたときに、本機のプリセットメモリーを連動して切り換えるための設定をします。

● 通信（R）

接続（C）...　：パソコンと DP-SP3 本体を接続して、オンライン状態にします。
切断（D）　：パソコンと DP-SP3 本体を切り離して、オフライン状態にします。

メ　モ

オフライン状態では、パソコンで設定を変更してもその内容は DP-SP3 本体に反映されません。

バルク送信（T）...　：現在開いているファイルのデータをユニットに送信します。
バルク受信（R）...　：DP-SP3 本体内部のデータを受信します。
自動接続する（A）...　：次回、ファイルを開いたときに自動接続します。
ファームウェア（F）　：DP-SP3 本体のファームウェアのバージョンを表示します。（オンライン状態のときのみ有効です）。
接続設定（S）　：ユニットのネットワーク設定を行い、DP-SP3 PC ソフトウェアが接続するユニットの IP アドレスを指定します。

● オプション（O）

ユーザーレベルと禁止設定（S）...　：ユーザーレベルの設定、および各種操作の禁止設定を行います。
プリセット G の有効設定（G）...　：プリセット 1 ～ 16 で共通に使える領域（プリセット G）の設定を行います。
接点入力設定（C）　：接点入力に関する機能設定を行います。
機器のロック On/Off
　→ Off　：DP-SP3 本体のミュートスイッチの操作を有効にします。
　→ On　：DP-SP3 本体のミュートスイッチの操作を無効にします。

● ヘルプ（H）

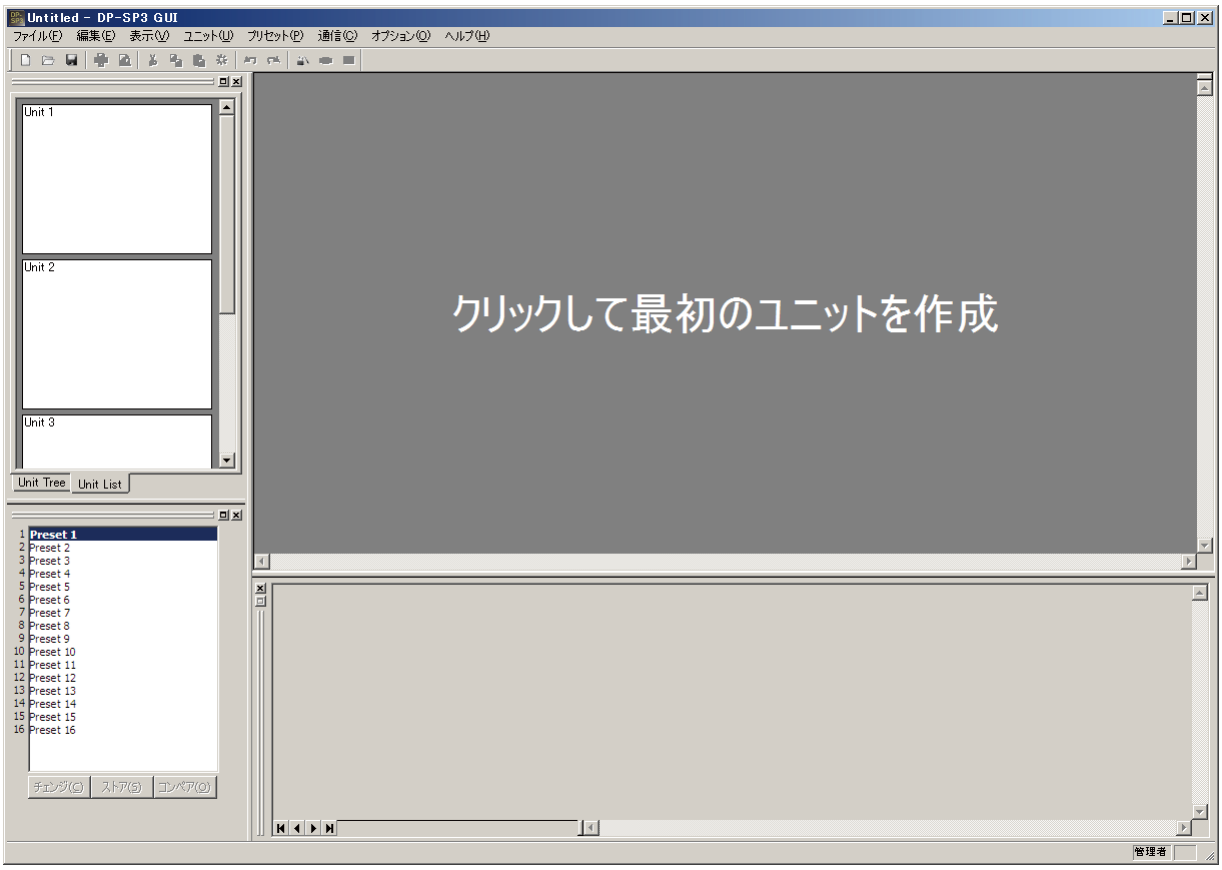
バージョン情報（A）...　：本ソフトウェアのバージョンを表示します。

機器構成の設定

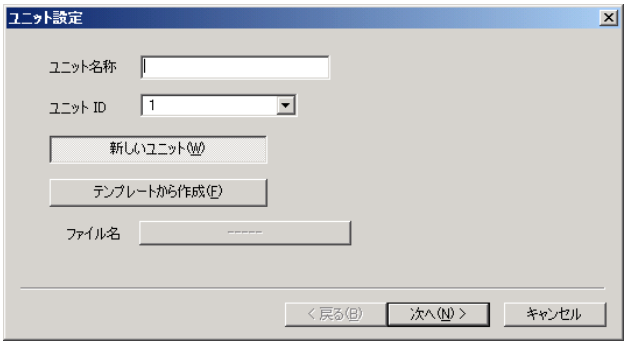
本ソフトウェアを起動したら、まず最初のユニットを作成し機器構成を設定します。
本ソフトウェアでは、機器構成を設定したデータを「ユニット」と呼びます。

■ ユニットの作成

1 メイン画面の［クリックして最初のユニットを作成］（フロービュー）エリアをクリックする。



ユニット設定画面が表示されます。



2 ユニット名称を入力し、ユニット ID を選択する。

※ 全角、半角問わず最大 20 文字入力できます。
すでに用意されているテンプレートファイルから作成する場合は、［テンプレートから作成］をクリックし、ファイル名の右の［クリックして下さい］と表示されたボタンをクリックするとファイルを選択するダイアログボックスが表示されファイルを選択します。

3 [次へ] ボタンをクリックする。

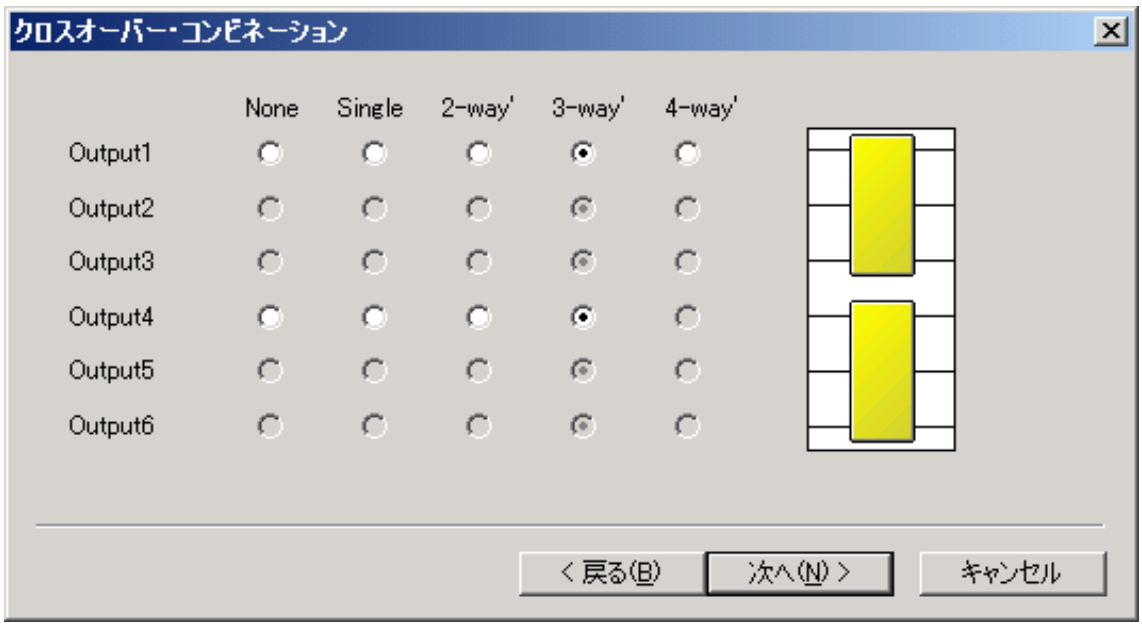
クロスオーバー・コンビネーション画面が表示されます。

※クロスオーバー機能の設定をする場合は、手順 4 へ、しない場合は手順 6 へ進んでください。

4 設定内容をクリックして、クロスオーバー・コンビネーションの設定をする。

設定状態は画面右側のウィンドウに表示されます。

[3-way の 2 系統（Output 1、4）の設定例]

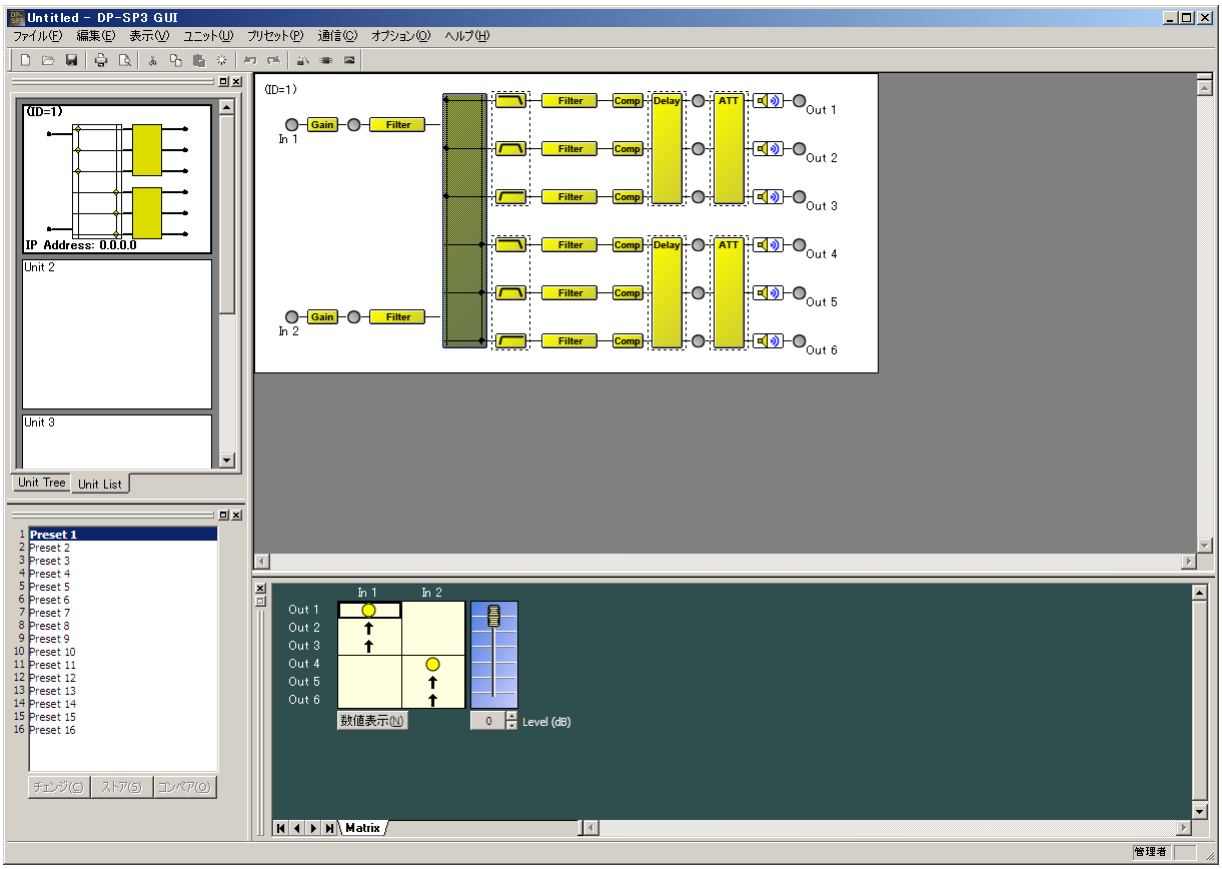


5 [次へ] ボタンをクリックする。

クロスオーバー・スロープの画面が表示されます。
設定状態は画面右側のウィンドウに表示されます。
※ テンプレート（☞ P. 17）を使う場合は、「テンプレートを使う」を選択し、チェックボックス右の［クリックして下さい］ボタンをクリックすると、ファイルを選択するダイアログボックスが表示されます。ファイルを選択し、［完了］ボタンをクリックすると、シグナルフローが表示されます。

6 設定に間違いがないことを確認して、［完了］ボタンをクリックする。

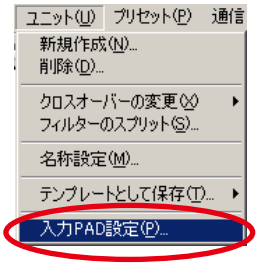
シグナルフローが表示されます。

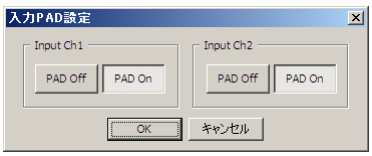


7 入力 PAD 設定をする。

7-1 DP-SP3 本体との通信切断時に、メニューから［ユニット（U）→入力 PAD 設定（P）］を選択する。

入力 PAD 設定画面が表示されます。





7-2 入力 1、2 の入力感度をそれぞれ設定し、［OK］ボタンをクリックする。

PAD ON ：+4 dB *
PAD OFF：−10 dB *

* 0 dB = 0.775 V

ご注意

入力 PAD 設定は、DP-SP3 本体と接続してないときのみ操作できます。
設定後、DP-SP3 本体へ反映させるには、本体と接続し、設定データを送信してください。（☞ P. 55）

■ ユニットの削除

パソコンと DP-SP3 本体が通信していないときのみ、すでに作成したユニットを削除できます。
ユニットビューまたはフロービューで、削除したいユニットを選択します。
メニューから、[ユニット（U）→ 削除（D)] を選択すると、確認のダイアログが表示されます。
[OK] ボタンをクリックすると、ユニットが削除されます。

■ クロスオーバー・コンビネーションの変更

パソコンと DP-SP3 本体が通信していないときのみ、すでに作成したユニットのクロスオーバー・コンビネーションを変更できます。
ユニットビューまたはフロービューで、クロスオーバー・コンビネーションの変更をしたいユニットを選択します。
メニューから、[ユニット（U）→ クロスオーバーの変更（X）→ コンビネーション（C）...] を選択すると、クロスオーバー・コンビネーション画面が表示されます。
ユニットの作成のときと同様の手順（☞ P. 14）で、クロスオーバー・コンビネーションの設定を変更できます。

■ クロスオーバー・スロープの変更

パソコンと DP-SP3 本体が通信していないときのみ、すでに作成したユニットのクロスオーバー・スロープを変更できます。
ユニットビューまたはフロービューで、クロスオーバー・スロープの変更をしたいユニットを選択します。
メニューから、[ユニット（U）→ クロスオーバーの変更（X）→ スロープ（S）...] を選択すると、クロスオーバー・スロープ画面が表示されます。
ユニットの作成のときと同様の手順（☞ P. 15）で、クロスオーバー・スロープの設定を変更できます。

■ 名称設定

ユニットビューまたはフロービューで、名称を変更したいユニットを選択します。
メニューから、[ユニット（U）→ 名称設定（M）...] を選択すると、名称設定画面が表示されます。
名称設定画面の「ユニット名称」欄に名称を入力し、[OK] ボタンをクリックすると、ユニットに名称が表示されます。

■ ユニットをテンプレートとして保存

ユニットビューまたはフロービューで、設定された機器構成をテンプレートとして保存できます。
メニューから、[ユニット（U）→ テンプレートして保存（T）→ ユニットのテンプレート（U）...] を選択すると、ファイル保存画面が表示されます。
ファイル名（N）にファイル名を入力し、[保存] をクリックします。

■ クロスオーバー設定をテンプレートとして保存

ユニットビューまたはフロービューで、設定されたクロスオーバーボックス（例： ）をテンプレートとして保存できます。
メニューから、[ユニット（U）→ テンプレートして保存（T）→ クロスオーバーのテンプレート（X）...] を選択すると、ファイル保存画面が表示されます。
ファイル名（N）にファイル名を入力し、[保存] をクリックします。

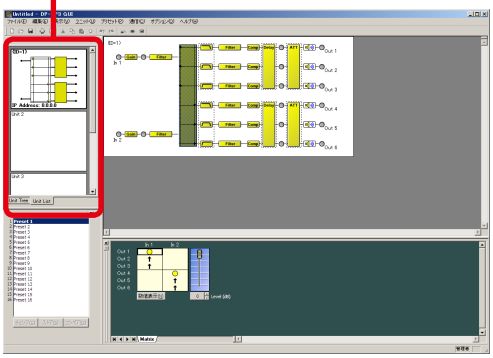
ユニットの操作

■ ユニットビュー

メイン画面の左上の部分がユニットビューです。
ユニットを一覧で表示します。最大 4 台までのユニットを一覧表示できます。
表示方式は、リスト表示とツリー表示があります。
表示は、ユニットビュー下のタブで切り換えます。

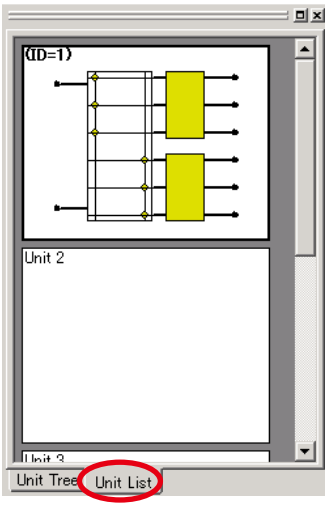
表示方法	タブ名
リスト表示	Unit List
ツリー表示	Unit Tree

ユニットビュー



● リスト表示

ユニットの信号処理イメージを縮小して表示します。(最大 4 台まで)
ユニット名称、入出力数、マトリクス設定、クロスオーバー・コンビネーションを簡易表示します。
作成済みのユニットをクリックして選択すると、フロービューにも選択したユニットが表示されます。



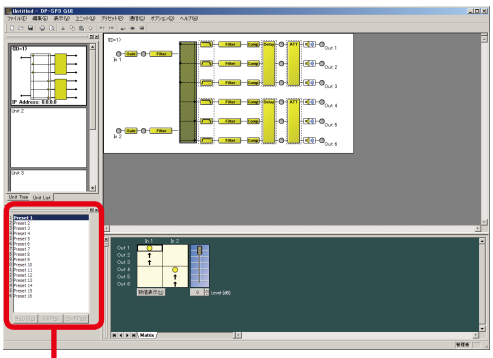
※リスト表示で、作成済みのユニットを空のユニットにドラッグ & ドロップすると、ユニットのコピーができます。

● ツリー表示

各ユニットの一覧をツリー表示します。(最大 4 台まで)
作成済みのユニットをクリックすると、フロービューにも選択したユニットが表示されます。

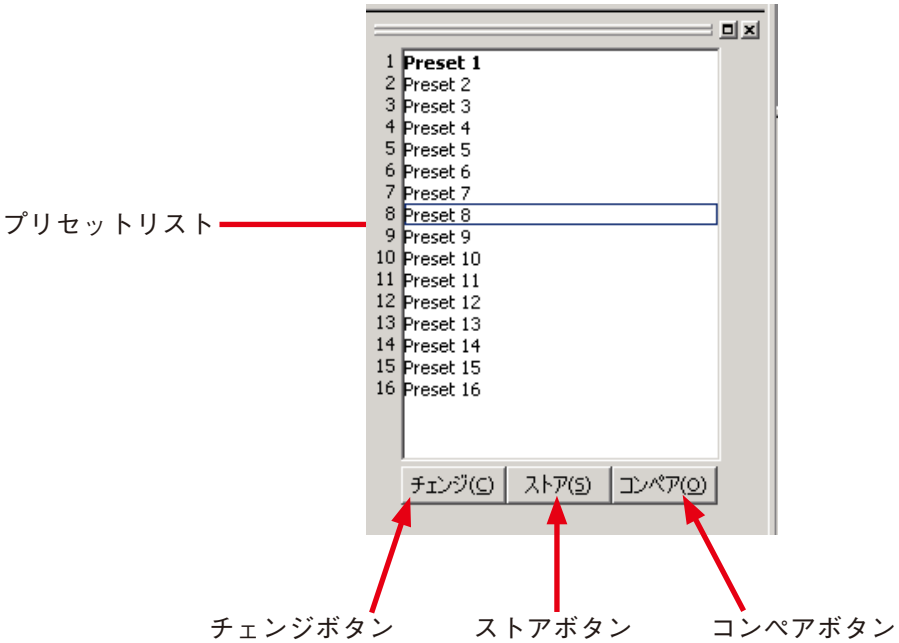
■ プリセットビュー

メイン画面の左下の部分がプリセットビューです。



プリセットビュー

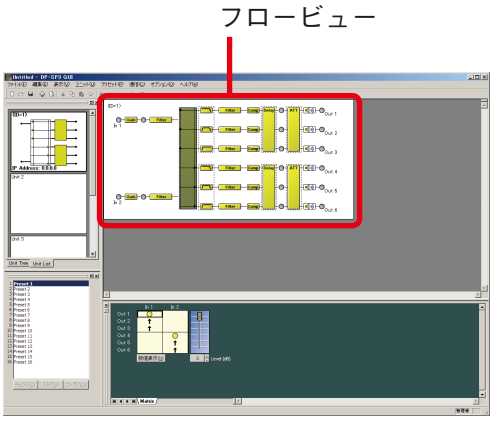
プリセットメモリーの名称と現在選択中のプリセット番号を表示します。
また、プリセットチェンジ、プリセットストア、およびプリセットコンペア（比較）をすることができます。

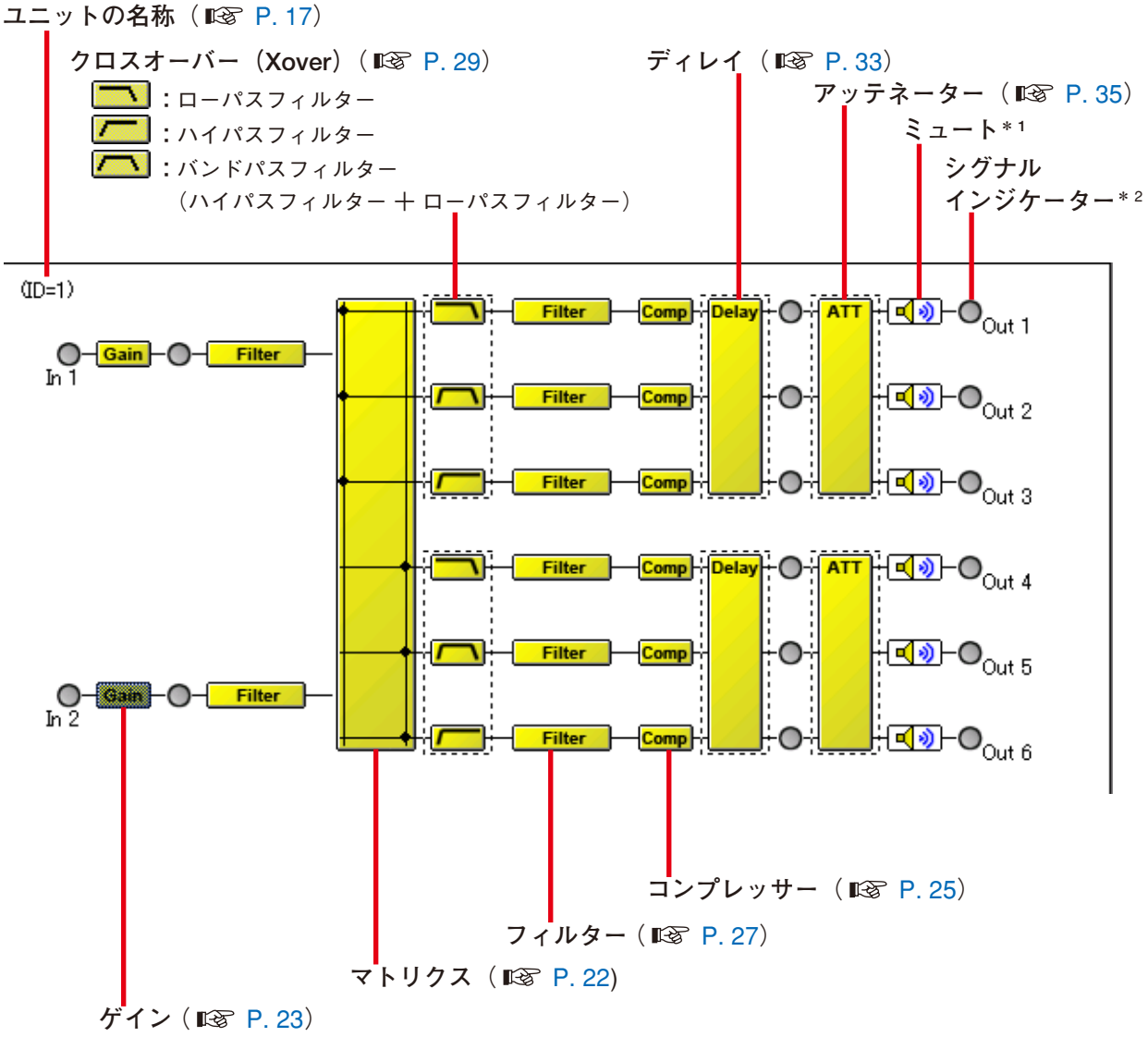


- プリセットリストで、太字表示されているものが現在選択中のプリセット番号です。
- プリセットメモリーを呼び出すには、変更したいプリセットメモリーの名称をクリックしてから、[チェンジ] ボタンをクリックします。メニューバーから呼び出すこともできます。（☞ P. 39）
- プリセットメモリーに書き込むには、記憶させたいプリセットメモリーの名称をクリックしてから、[ストア] ボタンをクリックします。メニューバーから書き込むこともできます。（☞ P. 39）
- プリセットコンペアをするときは、比較したいプリセットメモリーの名称をクリックしてから、[コンペア] ボタンをクリックします。
  選択位置のプリセットに一時的に切り換わります。エディット前の状態と比較するときは、太字表示されているプリセット番号をクリックしてからコンペアボタンをクリックします。もう一度 [コンペア] ボタンをクリックすると、元の状態に戻ります。
- プリセットビューは、ドッキング表示とフローティング表示を切り換え可能です。
  [ドッキング表示にする場合]
  メニューから [表示（V）→ プリセットビュー（P）→ ドッキング（D）] を選択します。
  [フローティング表示にする場合]
  メニューから [表示（V）→ プリセットビュー（P）→ フローティング（F）] を選択します。

■ フロービュー

フロービューでは、ユニットの信号処理機能を示したボックスと、入出力を結ぶ直線からなるシグナルフローで表される、ユニットの信号処理イメージを表示します。





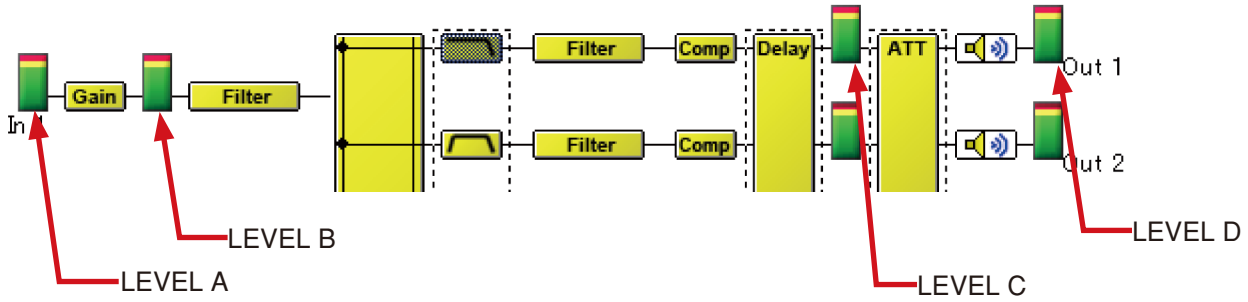
*1 ミュートボックスは、出力のミュートボタンをダブルクリックすると、ボックス内に＼印が表示されて、その系統のミュート機能の ON/OFF が切り換えられます。

ミュート ON ：

ミュート OFF ：

再度ダブルクリックするとミュートは解除されます。

*2 シグナルインジケーターは、パソコンと DP-SP3 本体が通信接続中であるときに、入力・出力における信号レベルに応じて表示が切り換わります。（☞ P. 42）

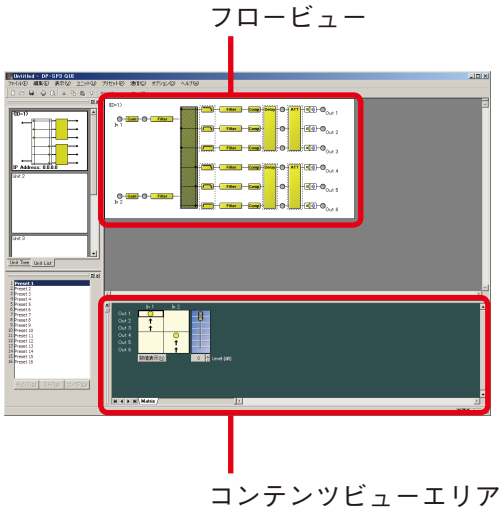


- LEVEL A は、A/D 変換直後の信号レベルを機器本体から取得し表示します。
- LEVEL B は、LEVEL A の信号レベルに入力ゲイン値を加算し、表示します。
- LEVEL C は、D/A 変換直前の信号レベルを機器本体から取得し、表示します。
- LEVEL D は、LEVEL C の信号レベルに出力アッテネーター値を加算し、表示します。

赤色：信号レベルが 18 dB 以上
黄色：信号レベルが 12 dB 以上、18 dB 未満
緑色：信号レベルが −40 dB 以上、12 dB 未満

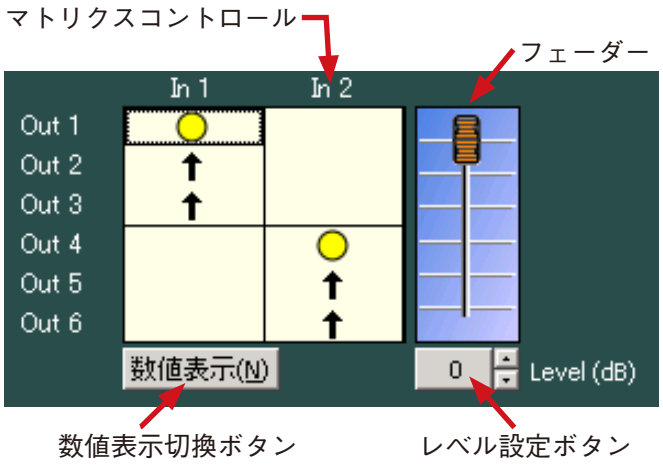
■ コンテンツビュー

フロービューの各ボックスをクリックすると、フロービューの下のエリアにそれぞれのビューが表示されます。

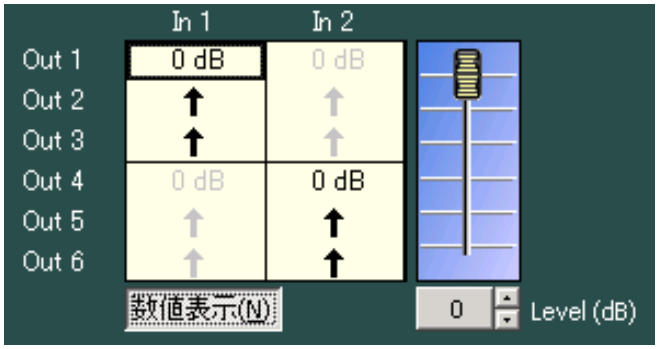


● Matrix ビュー

シグナルフローの中のマトリックスのボックスをクリックすると Matrix ビューが表示されます。



数値表示例

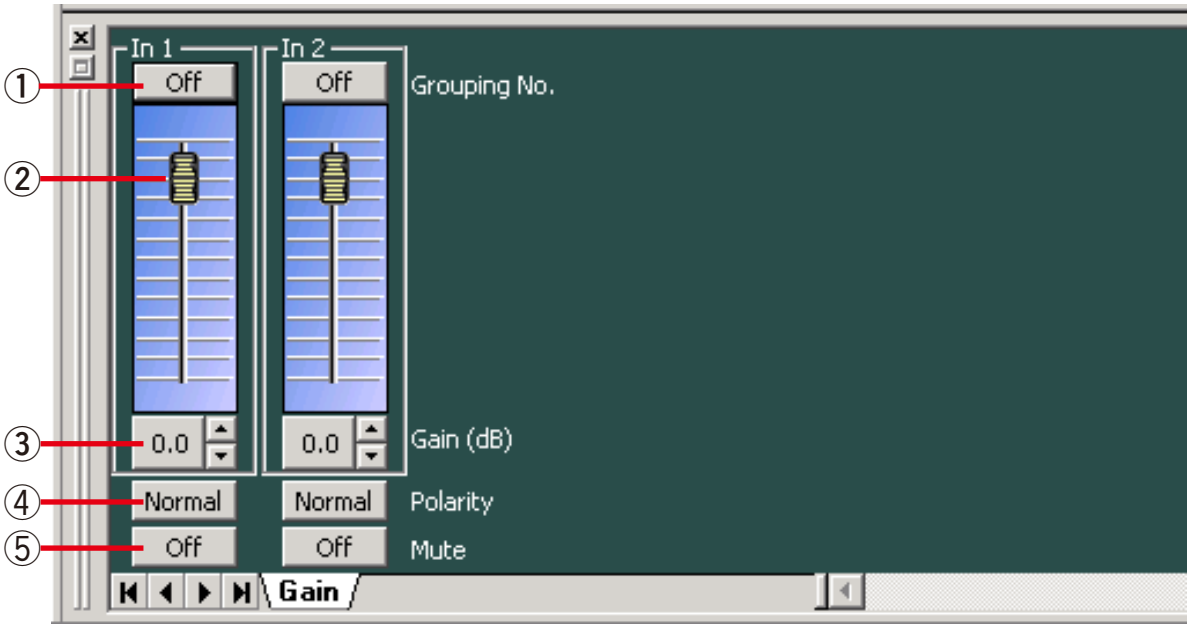


- マトリクスコントロールにおける●印が、入出力のルーティングを表します。
- マトリクスコントロールをダブルクリックすることで、ON/OFF の切り換えができます。
- マトリクスコントロール上の黒い太線枠は、選択されているマトリクスポイントを表します。
- フェーダを上下させることで、選択されているマトリクスポイントにおけるレベルを変更できます。
- レベル設定ボタンには、選択されているマトリクスポイントにおけるレベルが数値表示されます。このボタンをクリックすることで、数値による直接入力が可能です。右側の上下ボタンで 1 dB 単位の UP/DOWN もできます。
- 数値表示切換ボタンをクリックすることで、各マトリクスポイントにおけるレベル設定が数値表示されます。

● Gain ビュー（ ゲインの設定 ）

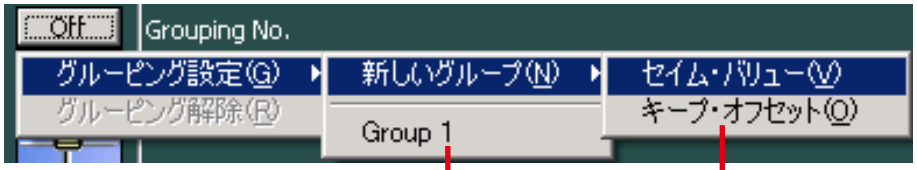
シグナルフローの中のゲインのボックス Gain をクリックすると、Gain ビューが表示されます。

［Gain ビュー］（入力前段）



① グルーピングボタン［Grouping No.］

グルーピングがされているときはグループ番号、されていないときは Off が表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューでグルーピング設定またはグルーピング解除ができます。
グルーピングされているチャンネルのフェーダーを上下させたときは、同じグループに属している他のフェーダーも同様に動きます。



「新しいグループ」または すでに設定されたグループの番号を選択します。

「新しいグループ」を選択したときのみ、「セイム・バリュー」または「キープ・オフセット」を選択します。
セイム・バリュー　：グループ内のゲインを同じ値にします。
キープ・オフセット：グループ設定をした時点でのグループ内のゲインの相対値を変更せずに、ゲインの値を変えられます。

② フェーダー
上下させると、各チャンネルの信号レベルを変更できます。

③ ゲイン表示ボタン［Gain（dB）］
各チャンネルの信号レベルが数値で表示されます。
このボタンをクリックすると、ゲイン設定のダイアログが表示され、数値を直接入力して設定できます。
（設定範囲：－∞～ +12 dB）
右横の上下ボタンで 0.5 dB 単位の変更もできます。

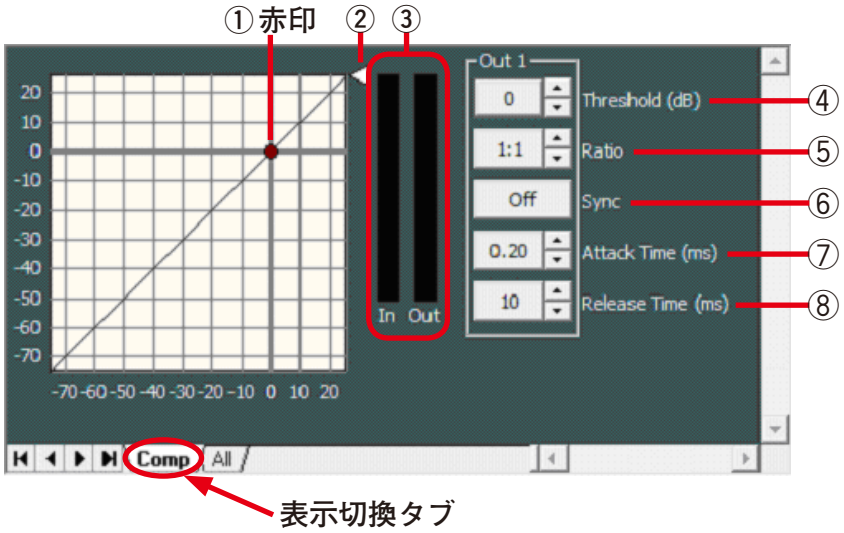
④ 極性反転ボタン［Polarity］
各チャンネルの極性が表示されます。このボタンをクリックすると、極性を反転させることができます。

⑤ ミュートボタン［Mute］
このボタンをクリックするとミュート機能の ON/OFF の切り換えができます。
ミュートボタンには、各チャンネルにおけるミュート機能の On/Off 状態が表示されます。

● Comp ビュー

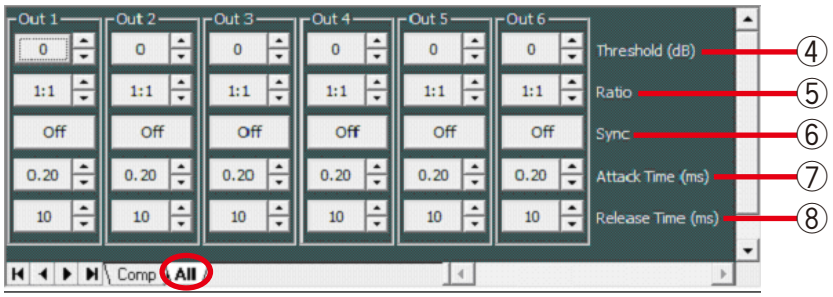
シグナルフローの中のコンプのボックス Comp をクリックすると、Comp ビューが表示されます。

[1 出力表示]



[ALL 出力表示]

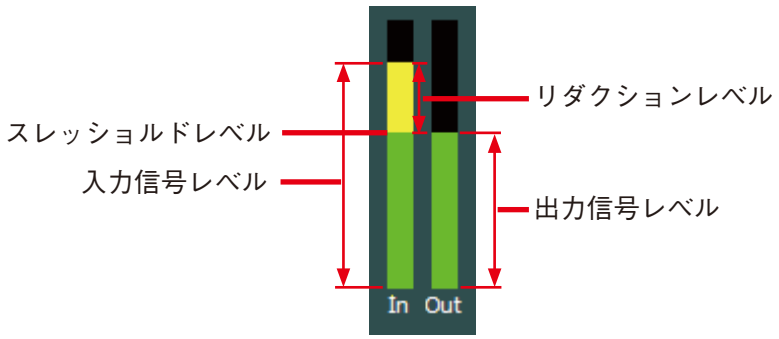
表示切換タブの All をクリックすると全チャンネルの設定画面が表示されます。



① スレッショルドハンドル（赤印）
スレショルドハンドルを、クリックして斜め線上にドラッグすることでスレッショルドレベル（Threshold）を変更できます。

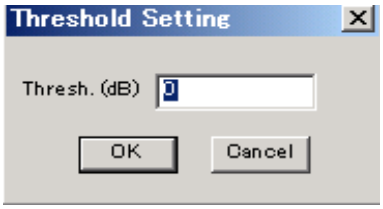
② レシオハンドル
レシオハンドルをクリックして上下にドラッグすることで、レシオ（Ratio）を変更できます。

③ リダクションメーター
コンプレッサーの効き具合は、リダクションメーターに黄色のバーグラフで表示されます。
オンライン状態で DP-SP3 が動作中は、入出力信号レベル、リダクションレベル（コンプレッサーの効き具合）、スレッショルドレベルが、次のようなバーグラフで表示されます。



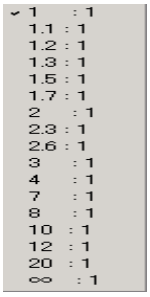
④ スレッショルドボタン［Threshold（dB）］

各チャンネルにおけるコンプレッサーのスレッショルドレベルが数値で表示されます。
右横の上下ボタンで 1 dB 単位の変更ができます。
また、このボタンをクリックすると、右図のようにスレッショルドレベル設定のダイアログが表示され、数値を直接入力して設定できます。
（設定範囲：–20 ～ +20 dB）



⑤ レシオボタン［Ratio］

各チャンネルにおけるコンプレッサーのレシオが数値で表示されます。
このボタンをクリックすると、右図のようにプルダウンメニューから設定値を選択できます。
また、右横の上下ボタンで右図の値のように変更ができます。



⑥ シンクボタン［Sync］

シンクボタンには、各チャンネルにおけるシンク（Sync）が表示されます。
このボタンをクリックするとプルダウンメニューから選択入力が可能です。

⑦ アタックボタン［Attack Time（ms）］

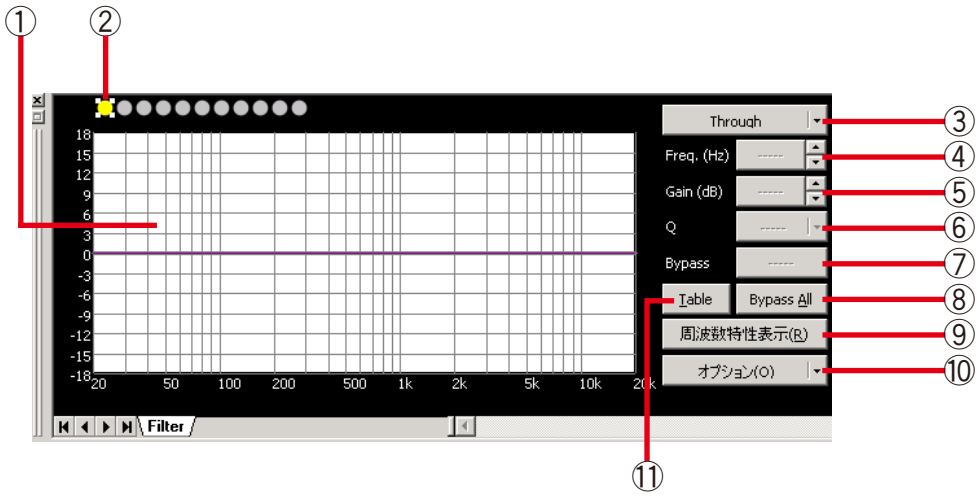
各チャンネルにおけるコンプレッサーのアタックタイムが数値で表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューから設定値を選択できます。
右横の上下ボタンでの変更もできます。

⑧ リリースボタン［Release Time（ms）］

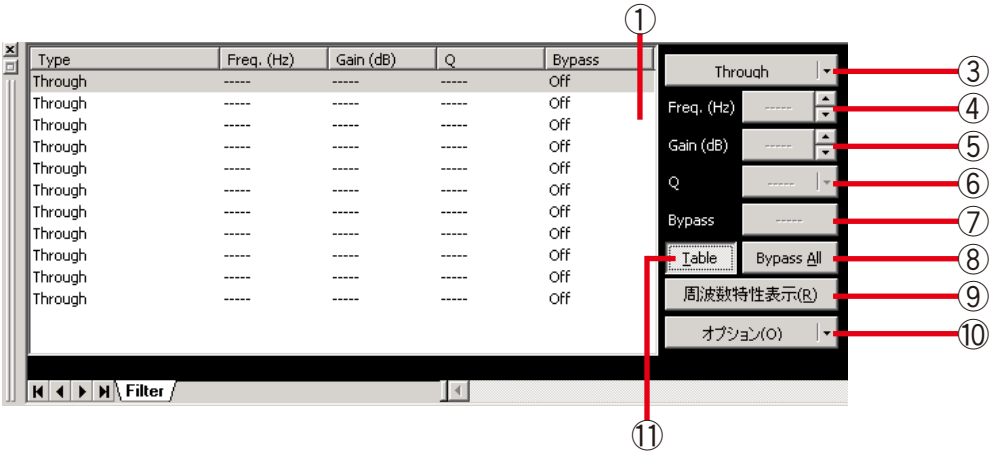
各チャンネルにおけるコンプレッサーのリリースタイム（Release Time）が数値表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューから設定値を選択できます。
右横の上下ボタンでの変更もできます。

● Filter ビュー

シグナルフローの中のフィルターのボックス Filter をクリックすると、Filter ビューが表示されます。



（表形式で表示したとき）
テーブル表示ボタン⑪をクリックすると、表形式になります。



① フィルターコントロール部

② フィルターポイントシンボル

フィルターポイントは、フィルターポイントシンボルから必要に応じて選択します。フィルターポイントシンボル上で任意のポイントを右クリックすると、右に示すようなポップアップメニューが表示されます。
以下の各フィルターを選択すると、フィルターコントロール部に丸印が表示されます。取り消したいときは、フィルターポイントシンボルをもう一度右クリックして「Through」を選択すると、フィルターコントロール部の丸印が消えます。
黄色い丸は、選択されているフィルターポイントを表します。

- ：パラメトリックイコライザー（PEQ）
- ：ハイパスフィルター（HPF）
- ：ローパスフィルター（LPF）
- ：ハイシェルビングフィルター（High Shelving）
- ：ローシェルビングフィルター（Low Shelving）
- ：オールパスフィルター（All Pass）
- ：ノッチフィルター（Notch）
- ：ホーンイコライザー（Horn EQ）

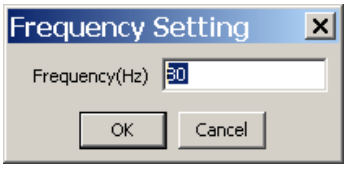
フィルターコントロール部のフィルターポイントをドラッグすると、周波数およびゲインが変更できます。
フィルターポイントの左横に白丸が表示されているときは、その白丸をクリックして上下にドラッグすると、選択されているフィルターポイントの Q 値を変更できます。

③ フィルター種類表示ボタン

選択されているフィルターポイントのフィルター種類が表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューからフィルターの種類を選択できます。
「Through」を選択すると、フィルターコントロール部の丸印が消えます。

④ 周波数表示ボタン［Freq.（Hz）］

選択されているフィルターポイントの周波数が表示されます。
このボタンをクリックすると周波数設定のダイアログが表示され、数値を直接入力して設定できます。（設定範囲：20 ～ 20000 Hz）
右横の上下ボタンで 1/24 oct（オプションボタンでステップ幅を変更可）単位の変更もできます。



⑤ ゲイン表示ボタン［Gain（dB）］

選択されているフィルターポイントのゲインが表示されます。
このボタンをクリックするとゲイン設定のダイアログが表示され、数値を直接入力して設定できます。（設定範囲：−15 ～ +15 dB）
右横の上下ボタンで 0.5 dB（オプションボタンで 0.1 dB に変更可）単位の変更もできます。

⑥ Q 表示ボタン［Q］

選択されているフィルターポイントの Q 値が表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューから設定値を選択できます。

⑦ バイパス ON/OFF ボタン

選択されているフィルターの ON/OFF 状態が表示されます。
このボタンをクリックすると、ON/OFF の切り換えができます。

⑧ バイパスオール ON/OFF ボタン

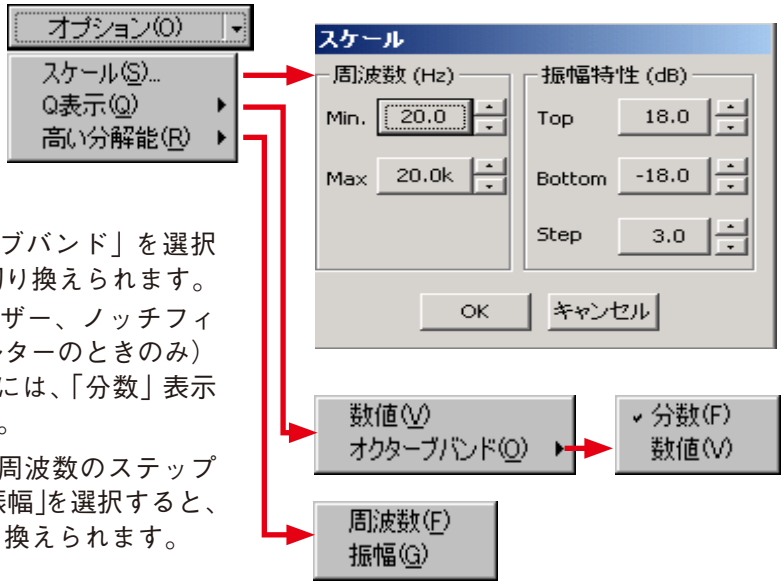
選択されているフィルターボックスの ON/OFF 状態が表示されます。
このボタンをクリックすると、ON/OFF が切り換えられます。
ON にすると、全フィルターが無効（OFF）になります。
OFF にすると、ON に設定されている全フィルターが有効になります。

⑨ 周波数特性表示ボタン

レスポンスビュー（☞ P. 36）の表示、非表示を切り換えます。

⑩ オプションボタン

このボタンをクリックすると、右記のプルダウンメニューが表示されます。



スケール　：スケールを変更できます。

Q 表示　：「数値」または「オクターブバンド」を選択すると、Q の表示方法を切り換えられます。（パラメトリックイコライザー、ノッチフィルター、オールパスフィルターのときのみ）
「オクターブバンド」表示には、「分数」表示と「数値」表示があります。

高い分解能：「周波数」を選択すると、周波数のステップ幅を切り換えられます。「振幅」を選択すると、ゲインのステップ幅を切り換えられます。

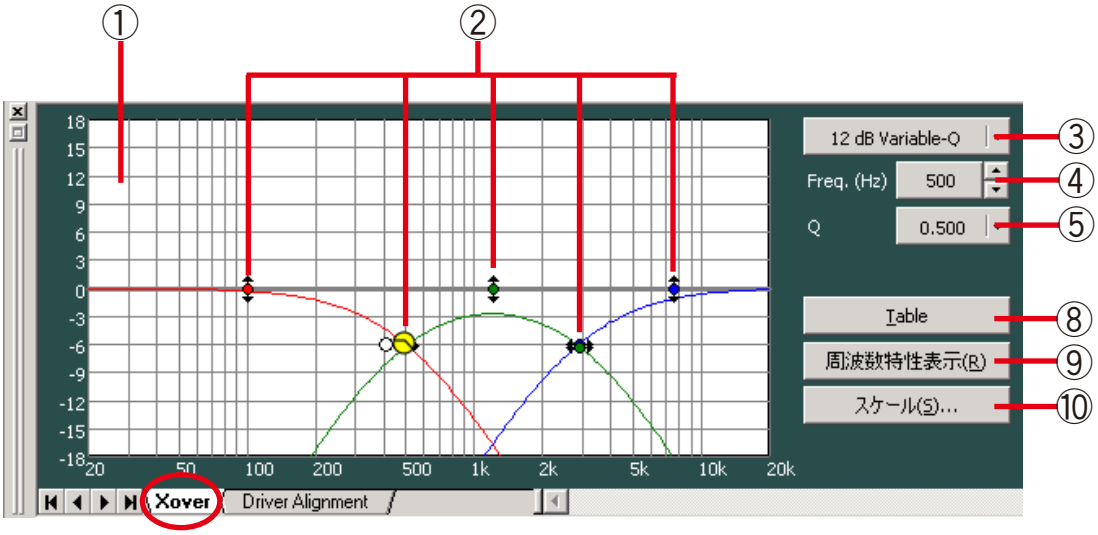
⑪ テーブル表示ボタン

このボタンをクリックすると、フィルターコントロール部を表形式で表示します。もう一度クリックすると、元のグラフ表示に戻ります。

● Xover ビュー（クロスオーバー機能の設定）

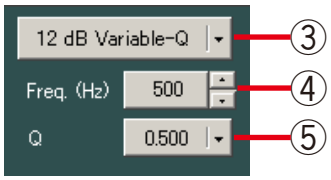
シグナルフローの中の Xover のボックス または をクリックすると、Xover ビューが表示されます。

［クロスオーバー機能の設定］
Xover のボックスをクリックすると、最初に Xover タブの画面が表示されます。

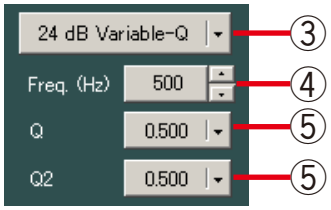


画面右上の表示は、選択されているフィルターの種類によって変化します。

（1）「12 dB Variable-Q」、「18 dB Variable-Q」選択時

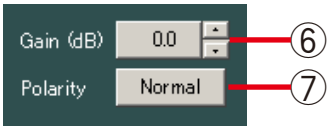


（2）「24 dB Variable-Q」選択時

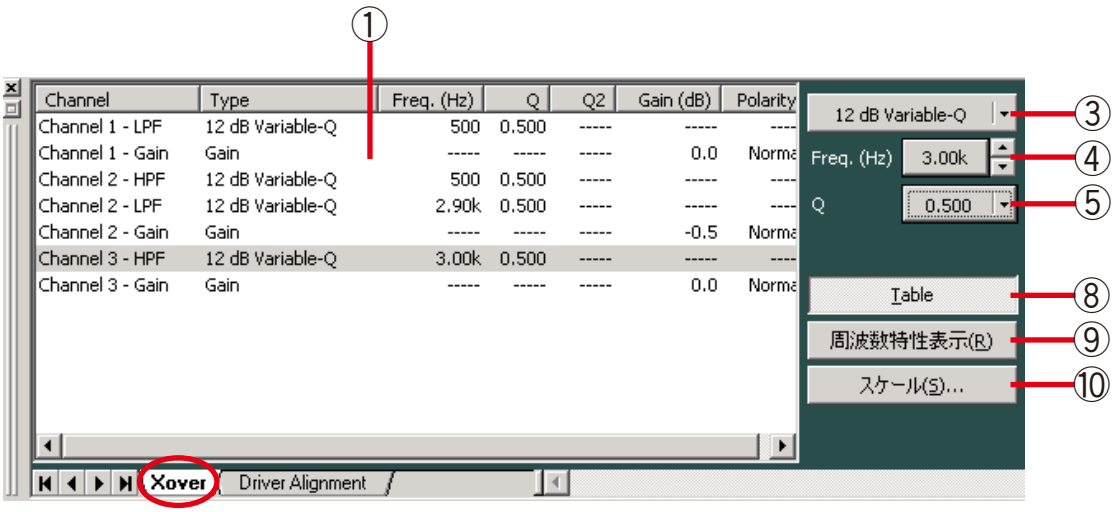


（3）上記以外のフィルター種類を選択時

（4）ゲインを選択時



（表形式で表示したとき）
テーブル表示ボタン⑧をクリックすると、表形式になります。



①フィルターコントロール部

②フィルターポイント

フィルターコントロール部の丸印が操作可能なフィルターポイントです。
黄色い丸は、選択されているフィルターポイントを表します。

（選択時）、（非選択時）：ハイパスフィルター
（選択時）、（非選択時）：ローパスフィルター
（選択時）、（非選択時）：ゲインコントロール

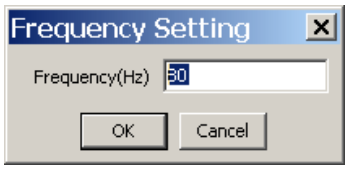
ハイパスまたはローパスフィルターポイントをクリックして左右にドラッグすると、選択されているフィルターポイントのカットオフ周波数を変更できます。
ゲインコントロールポイントをクリックして上下にドラッグすると、選択されているフィルターポイントのゲインを変更できます。
フィルターポイントの右横または左横に白丸が表示されているときに、その白丸をクリックして上下にドラッグすると、選択されているフィルターポイントのQ値を変更できます。

③フィルター種類表示ボタン

選択されているフィルターポイントのフィルター種類が表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューからフィルターの種類を選択できます。

④周波数表示ボタン［Freq.（Hz）］

選択されているフィルターポイントの周波数が表示されます。
このボタンをクリックすると周波数設定のダイアログが表示され、数値を直接入力して設定できます。（設定範囲：20 ～ 20000 Hz）
右横の上下ボタンでの変更もできます。



⑤Q表示ボタン［Q］、Q2表示ボタン［Q2］

選択されているフィルターポイントのQ値が表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューから設定値を選択できます。

⑥ゲイン表示ボタン［Gain（dB）］

選択されているゲインコントロールポイントのゲインが表示されます。
このボタンをクリックするとゲイン設定のダイアログが表示され、数値を直接入力して設定できます。（設定範囲：-15 ～ +12 dB）
右横の上下ボタンで0.5 dB単位の変更もできます。

⑦ 極性反転ボタン［Polarity］
ゲインコントロールが選択されている場合、フィルターポイントの極性状態が表示されます。
このボタンをクリックすると、極性を反転できます。

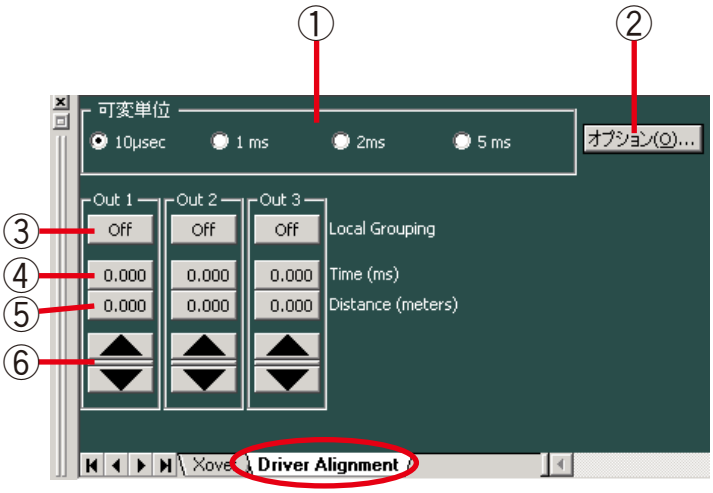
⑧ テーブル表示ボタン
このボタンをクリックすると、フィルターコントロール部を表形式で表示します。
もう一度クリックすると、元の表示に戻ります。

⑨ 周波数特性表示ボタン
レスポンスビュー（☞ P. 36）の表示、非表示を切り換えます。

⑩ スケール変更ボタン
このボタンをクリックするとスケール設定のダイアログが表示され、フィルターコントロール部のグラフスケールを変更できます。

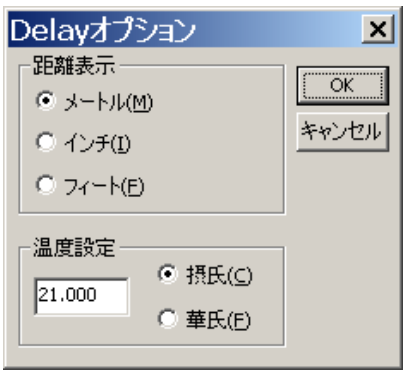
［Xover ボックス間の時間補正の設定］

表示切換タブの Driver Alignment をクリックすると、Xover ボックス間の時間補正の設定画面が表示されます。



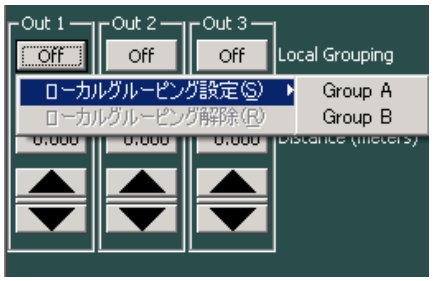
① 可変最小単位切換スイッチ
上下ボタンで変更できるディレイ時間の最小単位を選択できます。

② オプションボタン
このボタンをクリックすると、ディレイオプションのダイアログが表示され、ディレイ距離表示ボタンに表示される距離の単位を、メートル、インチ、フィートから選択できます。
また、ディレイ距離表示ボタンに表示される距離計算に用いる温度を設定できます。



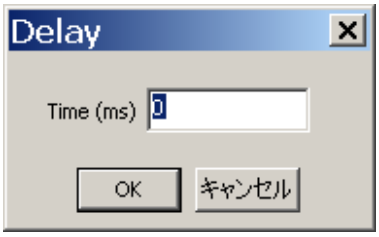
③ローカルグルーピングボタン［Local Grouping］

クロスオーバーが設定されているチャンネル内でのグルーピングが表示されます。
グルーピングがされているときはグループ記号、されていないときは Off が表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューでローカルグルーピング設定またはローカルグルーピング解除を行うことができます。



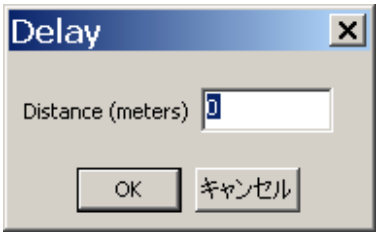
④ディレイ時間表示ボタン［Time（ms）］

チャンネルにおけるディレイ時間が数値で表示されます。
このボタンをクリックするとディレイ時間設定のダイアログが表示され、数値を直接入力して設定できます。



⑤ディレイ距離表示ボタン［Distance（meters/inches/feet）］

各チャンネルにおけるディレイ距離が数値で表示されます。
このボタンをクリックするとディレイ距離設定のダイアログが表示され、数値を直接入力して設定できます。

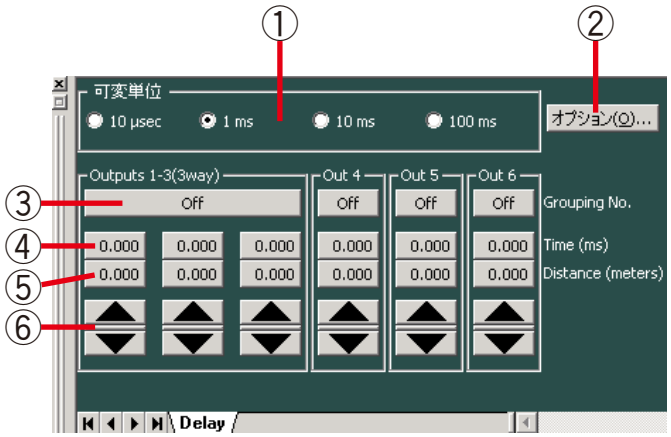


⑥上下ボタン

ディレイ時間を可変最小単位ごとに変更できます。

● Delay ビュー（ディレイ機能の設定）

シグナルフローの中のディレイのボックス Delay をクリックすると、Delay ビューが表示されます。

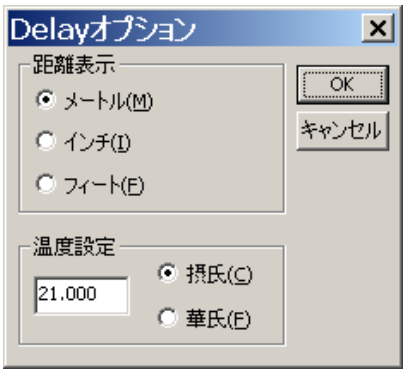


① 可変最小単位切換スイッチ

上下ボタンで変更できるディレイ時間の最小単位を選択できます。

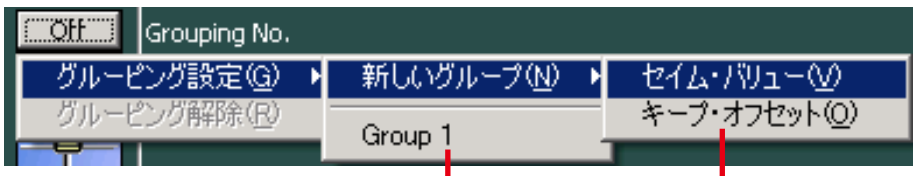
② オプションボタン

このボタンをクリックすると、ディレイオプションのダイアログが表示され、ディレイ距離表示ボタンに表示される距離の単位を、メートル、インチ、フィートから選択できます。
また、ディレイ距離表示ボタンに表示される距離計算に用いる温度を設定できます。



③ グルーピングボタン［Grouping No.］

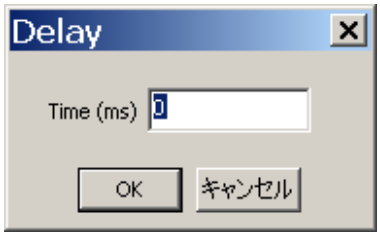
グルーピングがされているときはグループ番号、されていないときは Off が表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューでグルーピング設定またはグルーピング解除を行うことができます。
グルーピングされているチャンネルの各設定項目の値を上下させたときは、同じグループに属している他の設定値も同様に動きます。



「新しいグループ」または すでに設定されたグループの番号を選択します。

「新しいグループ」を選択したときのみ、「セイム・バリュー」または「キープ・オフセット」を選択します。
セイム・バリュー　：グループ内のゲインを同じ値にします。
キープ・オフセット：グループ設定をした時点でのグループ内のゲインの相対値を変更せずに、ゲインの値を変えられます。

④ディレイ時間表示ボタン［Time（ms)］
チャンネルにおけるディレイ時間が数値で表示されます。
このボタンをクリックするとディレイ時間設定のダイアログが表示され、数値を直接入力して設定できます。

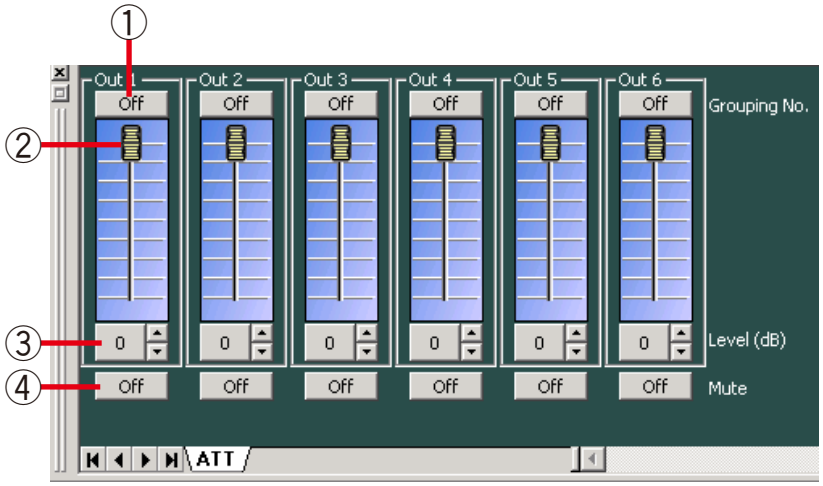


⑤ディレイ距離表示ボタン［Distance（meters/inches/feet)］
各チャンネルにおけるディレイ距離が数値で表示されます。
このボタンをクリックするとディレイ距離設定のダイアログが表示され、数値を直接入力して設定できます。

⑥上下ボタン
ディレイ時間を可変最小単位ごとに変更できます。

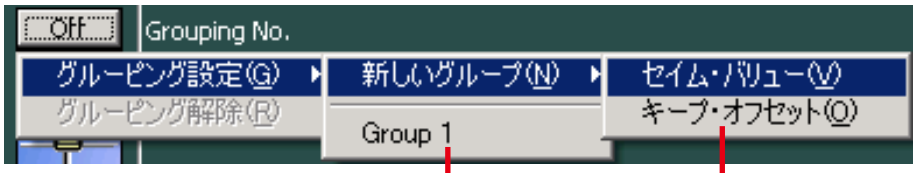
● ATT ビュー

シグナルフローの中のアッテネーターのボックス ATT をクリックすると、ATT ビューが表示されます。



① グルーピングボタン［Grouping No.］

グルーピングがされているときはグループ番号、されていないときは Off が表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューでグルーピング設定またはグルーピング解除を行うことができます。
グルーピングされているチャンネルのフェーダーを上下させたときは、同じグループに属している他のフェーダーも同様に動きます。



「新しいグループ」または すでに設定されたグループの番号を選択します。

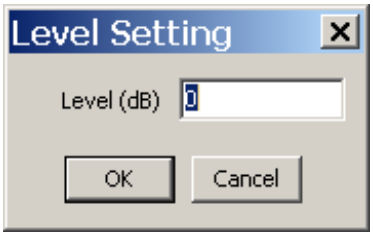
「新しいグループ」を選択したときのみ、「セイム・バリュー」または「キープ・オフセット」を選択します。
セイム・バリュー　：グループ内のゲインを同じ値にします。
キープ・オフセット：グループ設定をした時点でのグループ内のゲインの相対値を変更せずに、ゲインの値を変えられます。

② フェーダー

上下させると、各チャンネルの信号レベルを変更できます。

③ レベル表示ボタン［Level（dB）］

各チャンネルの信号レベルが数値で表示されます。
このボタンをクリックすると、レベル設定のダイアログが表示され数値を直接入力して設定できます。
（設定範囲：－∞～ 0 dB）
右横の上下ボタンで 1 dB 単位の変更もできます。

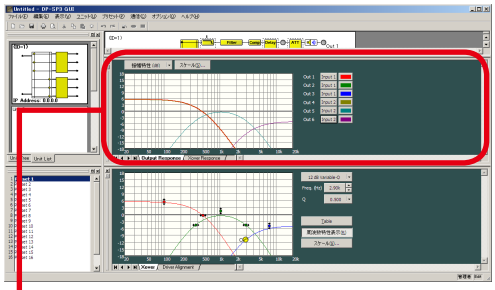


④ ミュートボタン［Mute］

このボタンをクリックするとミュート機能の ON/OFF の切り換えができます。
ミュートボタンには、各チャンネルにおけるミュート機能の On/Off 状態が表示されます。

■ レスポンスビュー

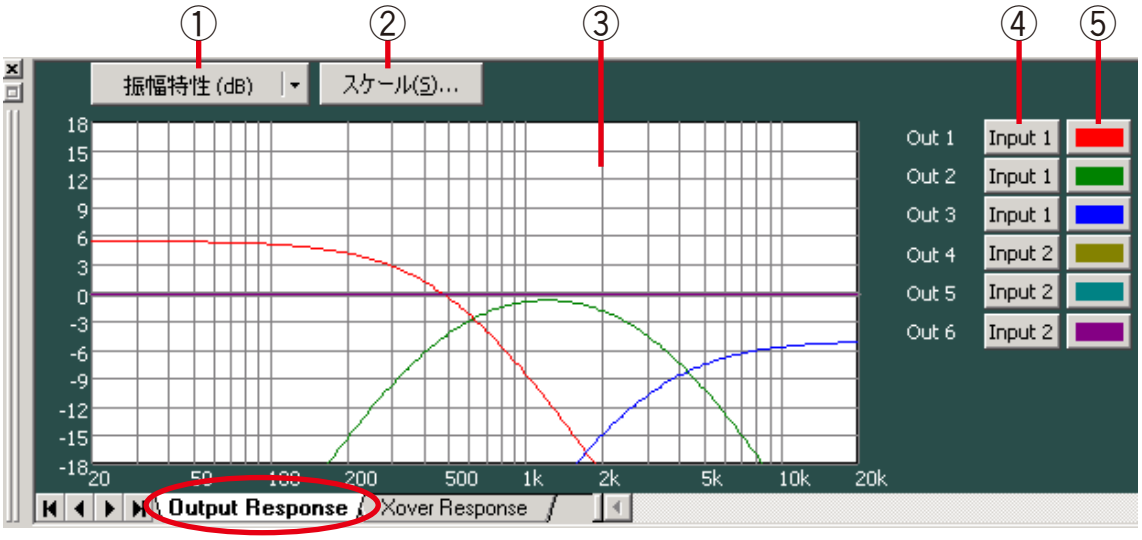
レスポンスビューを表示、非表示させるには、メニューから［表示（V）→ レスポンスビュー（R）］を選択するか、Filter ビュー（☞ P. 27）、Xover ビュー（☞ P. 29）の各ビューで周波数特性表示ボタンをクリックします。
レスポンスビューは Output Response と Xover Response の 2 種類があります。ただし、Xover Response ビューが表示されるのは、フロービューでフィルターボックスを選択しているときのみです。



レスポンスビュー

● Output Response ビュー

Output Response ビューでは、入力から出力までの総合特性を表示します。
各出力チャンネルに対し、マトリクスでルーティングされている入力を選択できます。
振幅特性、位相特性、群遅延特性の 3 種類が表示できます。



① 特性表示切換ボタン

現在表示中の周波数特性の種類が表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューから表示する周波数特性の種類を選択できます。振幅特性、位相特性、群遅延特性のうちどれか 1 つを表示する 1 画面表示と、これらのうち 2 つを表示する 2 画面表示の 2 種類があります。

② スケール変更ボタン

このボタンをクリックするとスケール設定のダイアログが表示され、レスポンスコントロールのグラフスケールを変更できます。

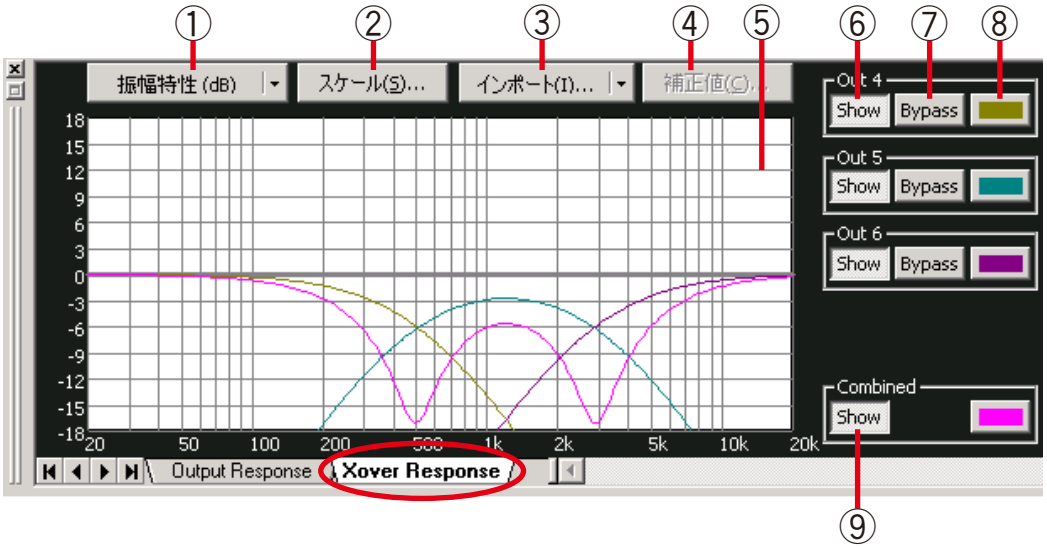
③ レスポンス表示部

④ 入力選択ボタン［Output 1 ～ 6］
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューから各出力チャンネルの特性表示の ON/OFF、および入力チャンネルの選択ができます。

⑤ 色変更ボタン
このボタンをクリックすると色の設定ダイアログが表示され、各チャンネルの特性表示曲線の表示色を変更できます。

● Xover Response ビュー

クロスオーバー＋フィルターの特性曲線を表示できます。
各チャンネル単独の特性に加えて、それらを加算した総合特性を表示できます。
振幅特性、位相特性、群遅延特性の 3 種類が表示できます。



① 特性表示切換ボタン
現在表示中の周波数特性の種類が表示されます。
このボタンをクリックすると、プルダウンメニューから表示する周波数特性の種類を選択できます。振幅特性、位相特性、群遅延特性のうちどれか 1 つを表示する 1 画面表示と、これらのうち 2 つを表示する 2 画面表示の 2 種類があります。

② スケール変更ボタン

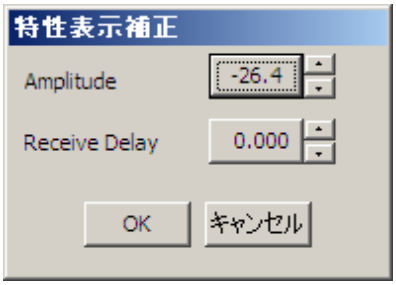
このボタンをクリックするとスケール設定のダイアログが表示され、レスポンスコントロールのグラフスケールを変更できます。

③ 測定データ取り込みボタン

他の測定ソフトウェアで測定したデータをインポートすることにより、マルチウェイスピーカーにおけるクロスオーバー設定のシミュレーションが行えます。
このボタンをクリックして、プルダウンメニューから対象となるチャンネルを選択してください。

④ 測定データ補正ボタン

このボタンをクリックすると、特性表示補正のダイアログが表示されますので、振幅特性を補正するには Amplitude を、位相特性を補正するには Receive Delay を変更してください。



⑤ レスポンス表示部

⑥ 特性表示ボタン

このボタンをクリックすると、各チャンネルの特性表示の ON/OFF ができます。

⑦ バイパスボタン

このボタンをクリックすると、各チャンネルの特性を総合特性に加算するかしないかを選択できます。

⑧ 色変更ボタン

このボタンをクリックすると色の設定ダイアログが表示され、各チャンネルの特性表示曲線の表示色を変更できます。

⑨ 総合特性表示ボタン

このボタンをクリックすると、各チャンネルの特性を加算した総合特性の表示の ON/OFF ができます。

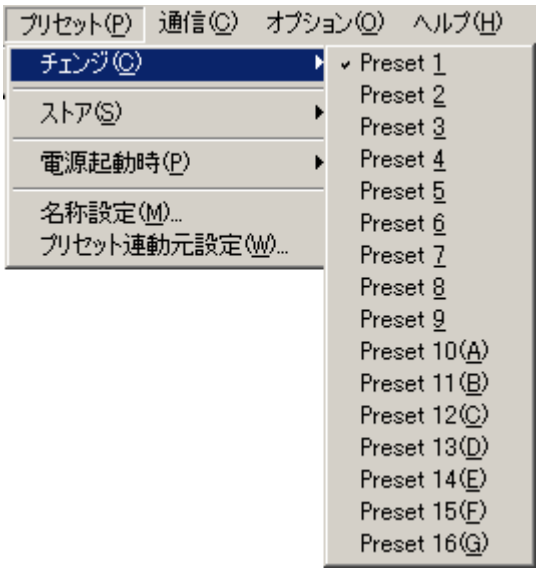
■ プリセットメモリー

プリセットメモリーは、16 個のパターンがあり自由に呼び出し、書き込みができます。

● プリセットメモリーの呼び出し

メニューから［プリセット（P）→ チェンジ（C）→ Preset（1 ～ 16）］を選択します。

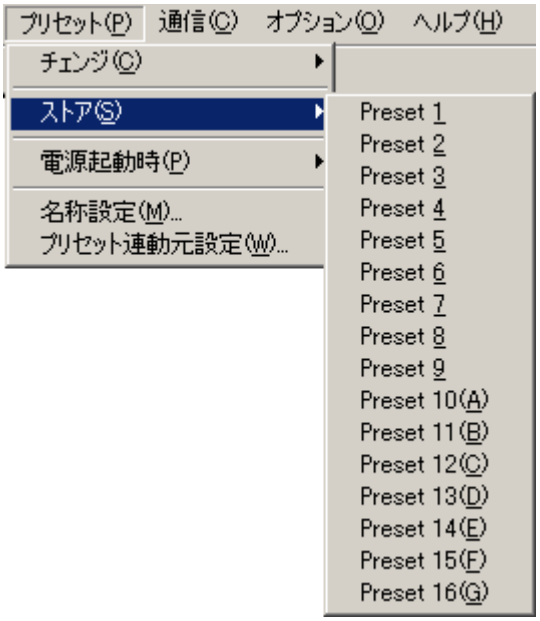
※ プリセットビューから呼び出すこともできます。（☞ P. 19）



● プリセットメモリーの書き込み

メニューから［プリセット（P）→ ストア（S）→ Preset（1 ～ 16）］を選択します。

※ プリセットビューから書き込むこともできます。（☞ P. 19）



● 電源起動時のプリセットメモリー設定

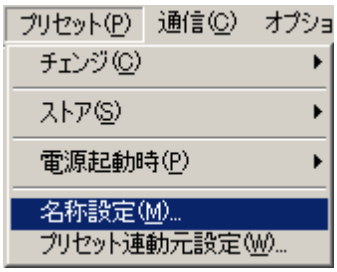
メニューから［プリセット（P）→ 電源起動時（P)］を選択した後、[Resume]、[Last Preset]、または［Preset 1 ～ 16］（プリセット番号）を選択します。

Resume	：前回の電源 OFF の直前の状態で起動します。
Last Preset	：前回の電源 OFF 時に選択されていたプリセットメモリーの設定データで起動します。
Preset 1 ～ 16	：選択したプリセットメモリーの設定データで起動します。

設定後、DP-SP3 本体と接続（☞ P. 55）し、設定データを本体に送信すると、次回起動時から、設定内容が反映されます。

● 名称設定

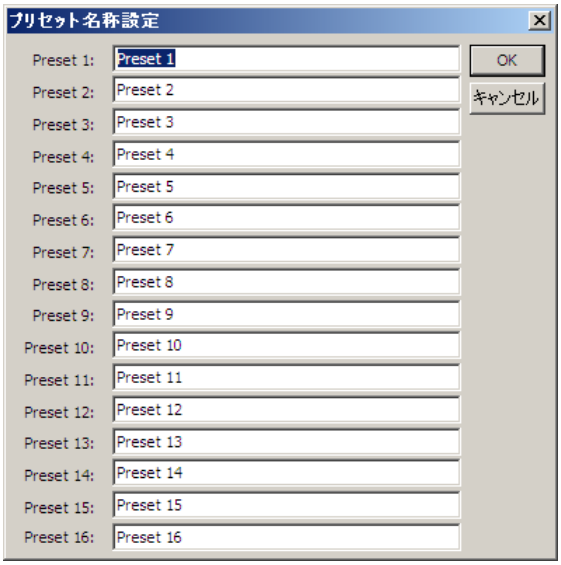
1 メニューから［プリセット（P）→プリセット名称設定（M)］を選択する。



プリセット名称設定画面が表示されます。

2 名称を入力し、［OK］ボタンをクリックする。

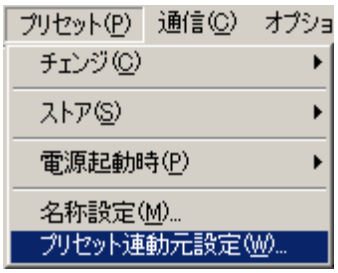
※ 全角、半角問わず最大 20 文字で入力できます。



● プリセットメモリーの連動元設定

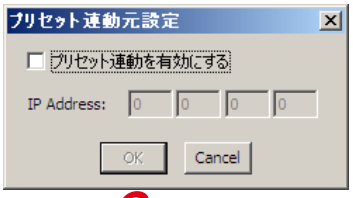
プリセットメモリーの連動とは、M-864D または DP-SP3（マスター機器）のプリセットメモリーを切り換えたときに、本機のプリセットメモリーを連動させて切り換える機能です。

1 メニューから［プリセット（P）→プリセット連動元設定（W）］を選択する。



プリセット連動元設定画面が表示されます。

2 「プリセット連動を有効にする」にチェックを入れて、プリセットを連動させたい機器（マスターとなる M-864D または DP-SP3）の IP アドレスを設定する。



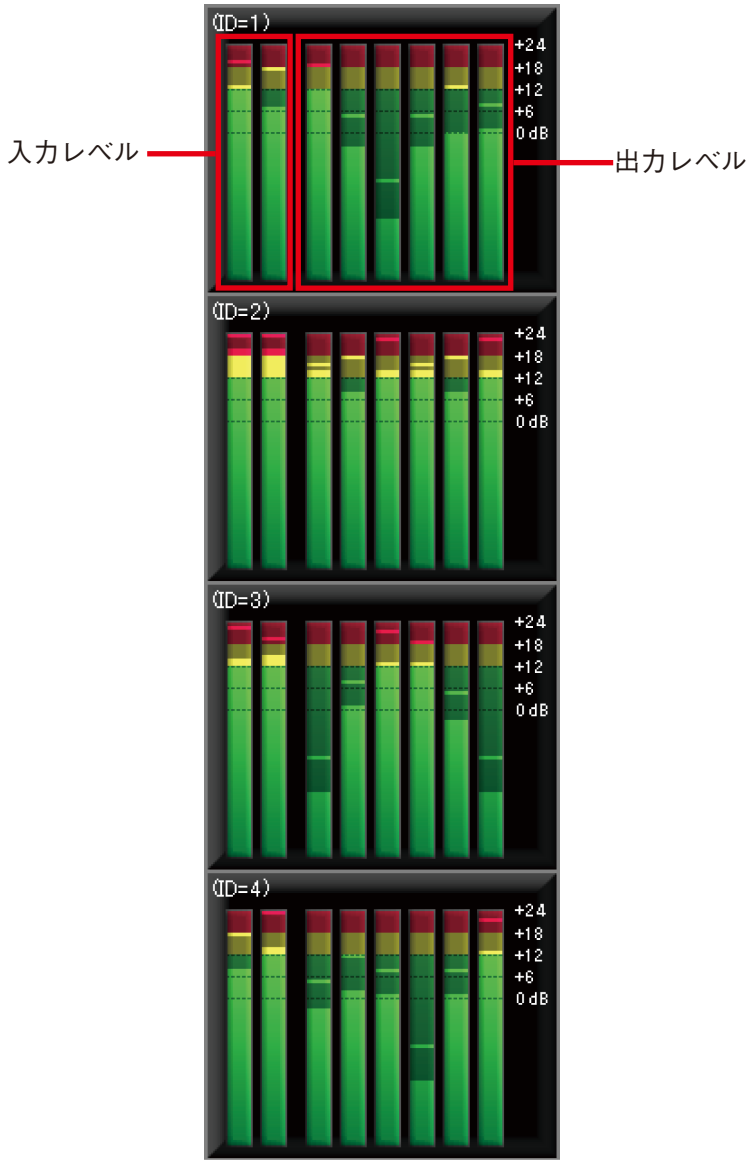
3 ［OK］ボタンをクリックする。

マスター側のプリセット番号を切り換えると、本機のプリセット番号が連動して切り換わります。

■ レベルモニタビュー

レベルモニタビューとは、パソコンと DP-SP3 本体が通信接続中のときに、ユニットの入出力レベルをモニタすることができるウィンドウです。

- 最大で 4 ユニットのレベルの表示ができます。
- 各ユニットにおける 2 入力・6 出力のレベル表示を行います。
- 入力レベルとして、フロービューにおけるシグナルインジケーターの LEVEL A の値（☞ P. 21）を表示します。
- 出力レベルとして、フロービューにおけるシグナルインジケーターの LEVEL D の値（☞ P. 21）を表示します。



■ ミュートビュー

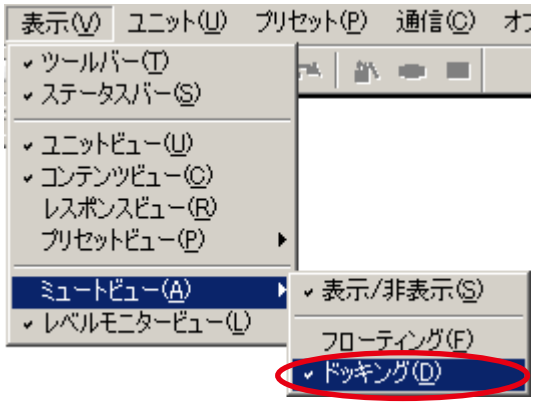
DP-SP3 PC ソフトウェアから通信接続してすべての DP-SP3 本体の出力を一斉または各出力ごとにミュート（消音）することができます。

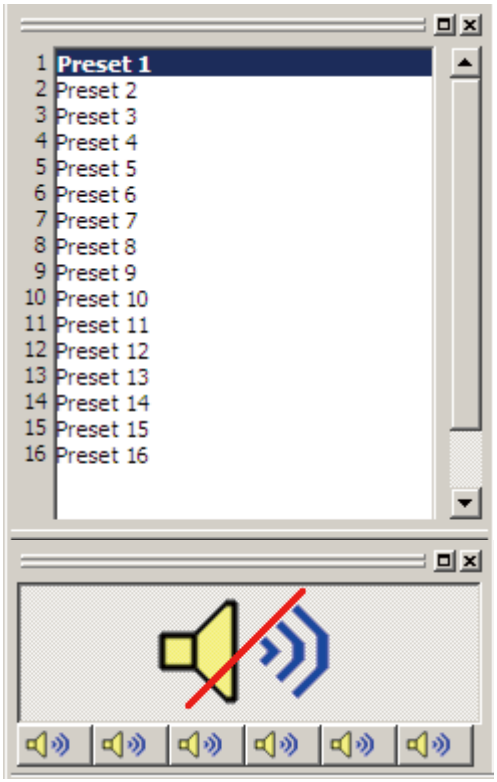
● ミュートビューを表示させる

下記の 2 通りの方法でミュートビューを表示させることができます。

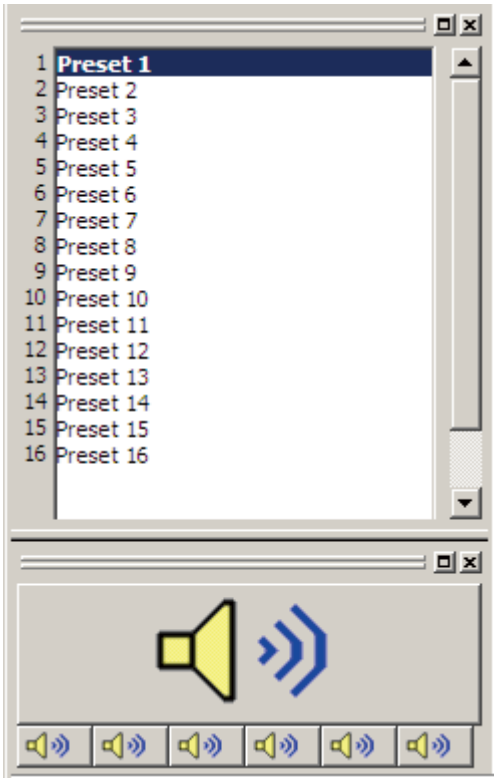
［ドッキング表示］

メニューから［表示（V）→ミュートビュー（A）→ドッキング（D）］を選択します。





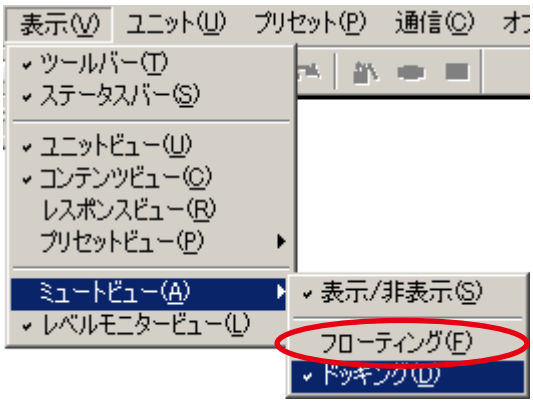
ミュート ON

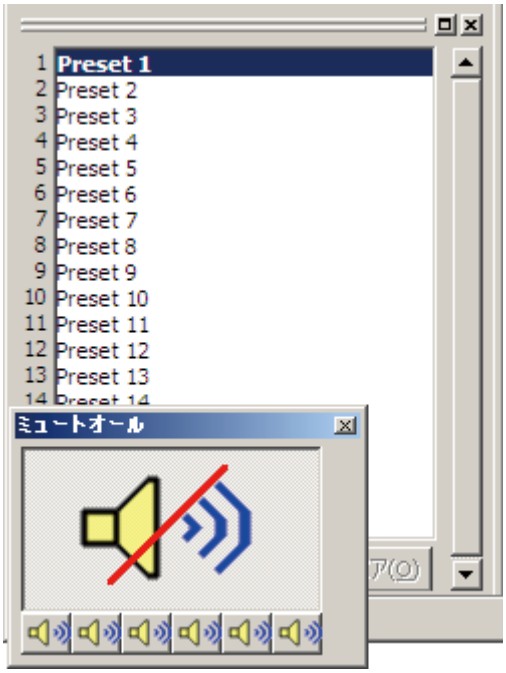


ミュート OFF

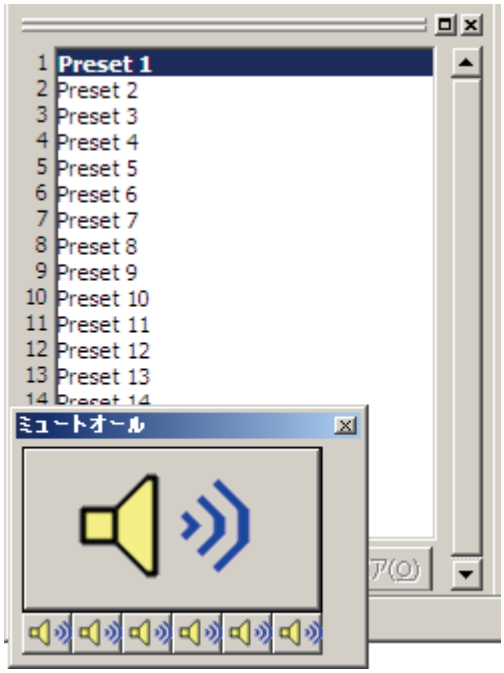
［フローティング表示］

メニューから［表示（V）→ミュートビュー（A）→フローティング（F）］を選択します。





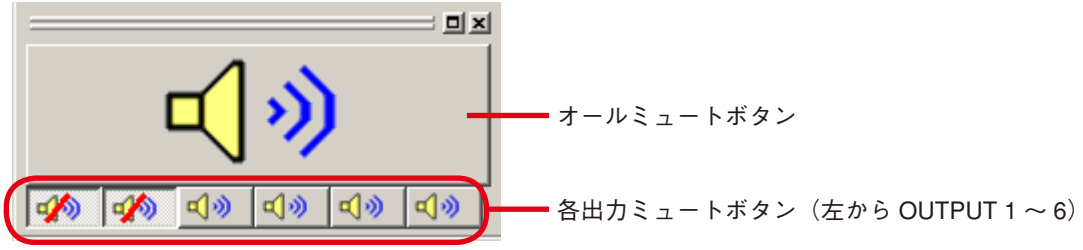
ミュート ON



ミュート OFF

● ミュートビューの操作のしかた

ミュートビューは、DP-SP3 本体との接続中のみ操作できます。
DP-SP3 本体の前面パネルにあるミュートスイッチで操作されたミュート情報が反映されます。
また、ミュートビューで操作した設定・解除情報は、本体の前面パネルの出力レベル表示灯の表示状態に反映されます。



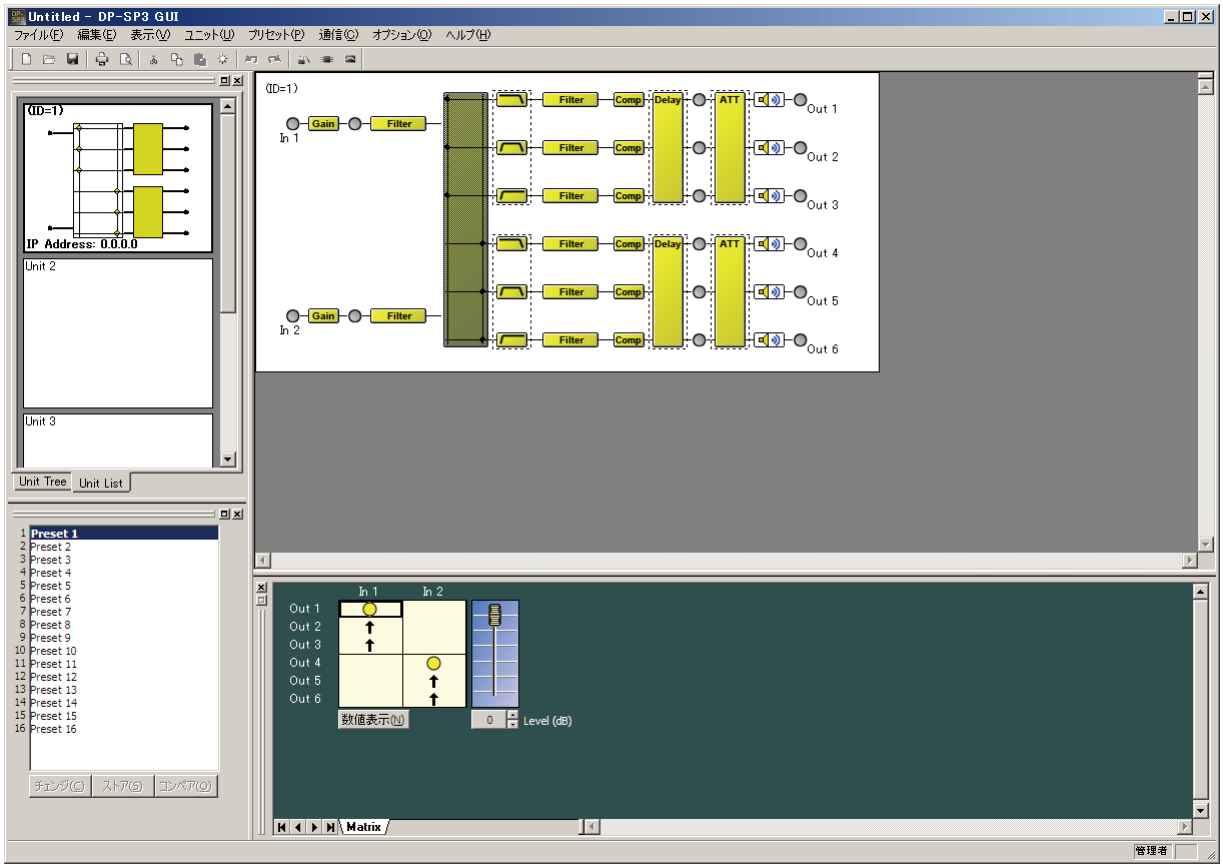
プリセットＧの使いかた

プリセットＧとは、プリセット１～16のメモリーとは別の独立した、プリセット１～16で共有できるメモリーです。
共通にしたいパラメーターをプリセットＧで設定することにより、複数のプリセットメモリーで共通なパラメーターとして使用することができます。
プリセットメモリーは元のパラメーターを保持します。
設定を解除すると元のパラメーターが有効になります。
複数ユニットを制御している場合は、プリセットＧで設定したパラメーターは、全ユニットプリセットＧに設定されます。
プリセットＧの設定手順は以下のとおりです。

1 共通にしたいパラメーターを含むプリセットメモリーを画面に表示させる。

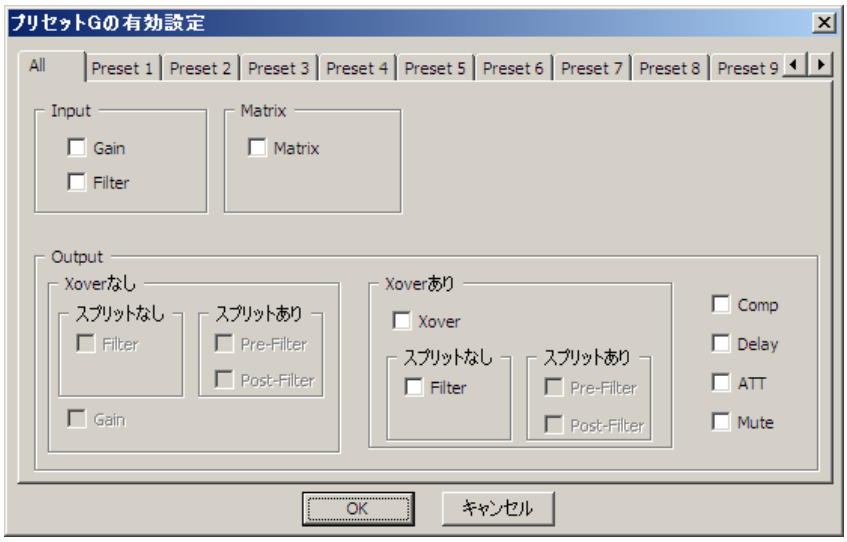
［ストア］ボタンが無効になっていることを確認してください。
［ストア］ボタンが有効になっている場合は、［ストア］ボタンをクリックして、呼び出しているプリセットメモリーを保存してください。

（プリセット１を表示させた例）



2 メニューバーから［オプション → プリセット G の有効設定］をクリックする。

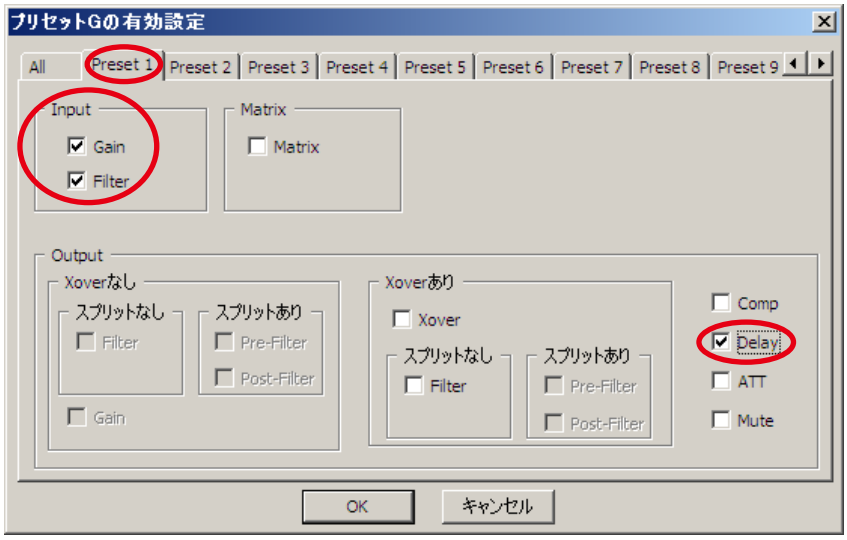
プリセット G の有効設定画面が表示されます



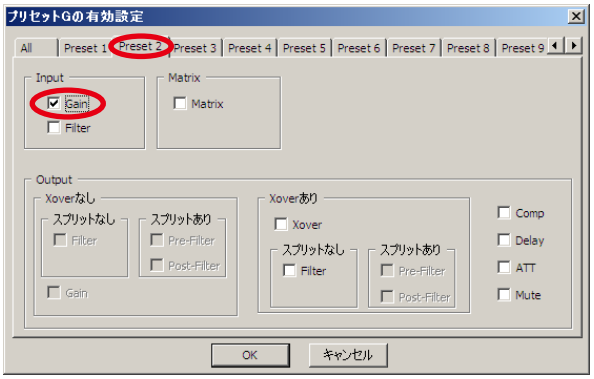
3 共通パラメーターを使いたいプリセットメモリーを選択し、パラメーターのボックスにチェックマークを入れる。

すべてのプリセットメモリーにチェックを入れたいときは、All タブで表示される画面で設定します。

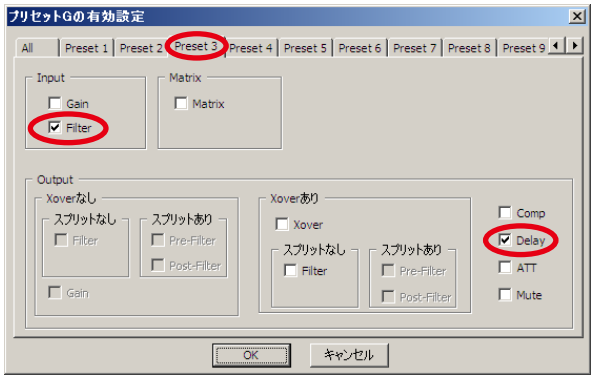
（プリセット 1 の Gain、Filter、Delay にチェックを入れた例）



（Preset 2 の Gain にチェックを入れた例）

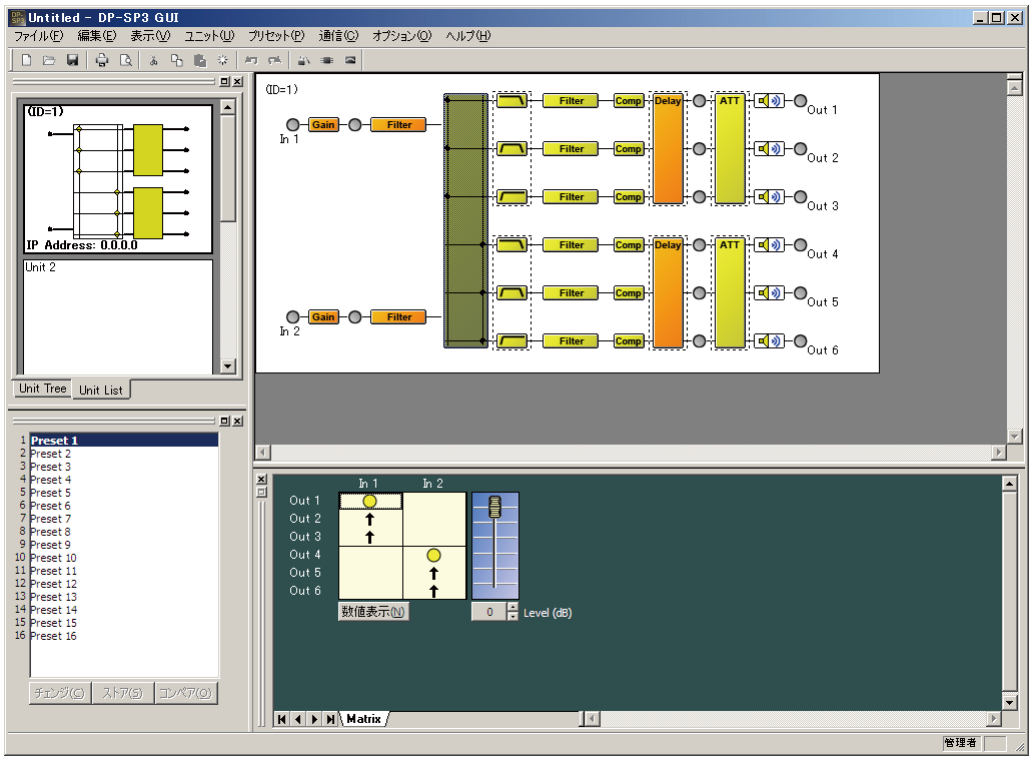


（プリセット 3 の Filter、Delay にチェックを入れた例）



4 「プリセット G の有効設定」画面の［OK］ボタンをクリックする。

設定が完了し、手順 1 の画面表示に戻ります。
設定されたパラメーターに該当するボックスが橙色に表示されます。



5 プリセット G の設定を解除したいときは、手順 2 に戻り、該当プリセットメモリーを選択した後、解除したいパラメーターのチェックを外し、［OK］ボタンをクリックする。

設定を解除されたパラメーターについては、元のパラメーターが有効になります。

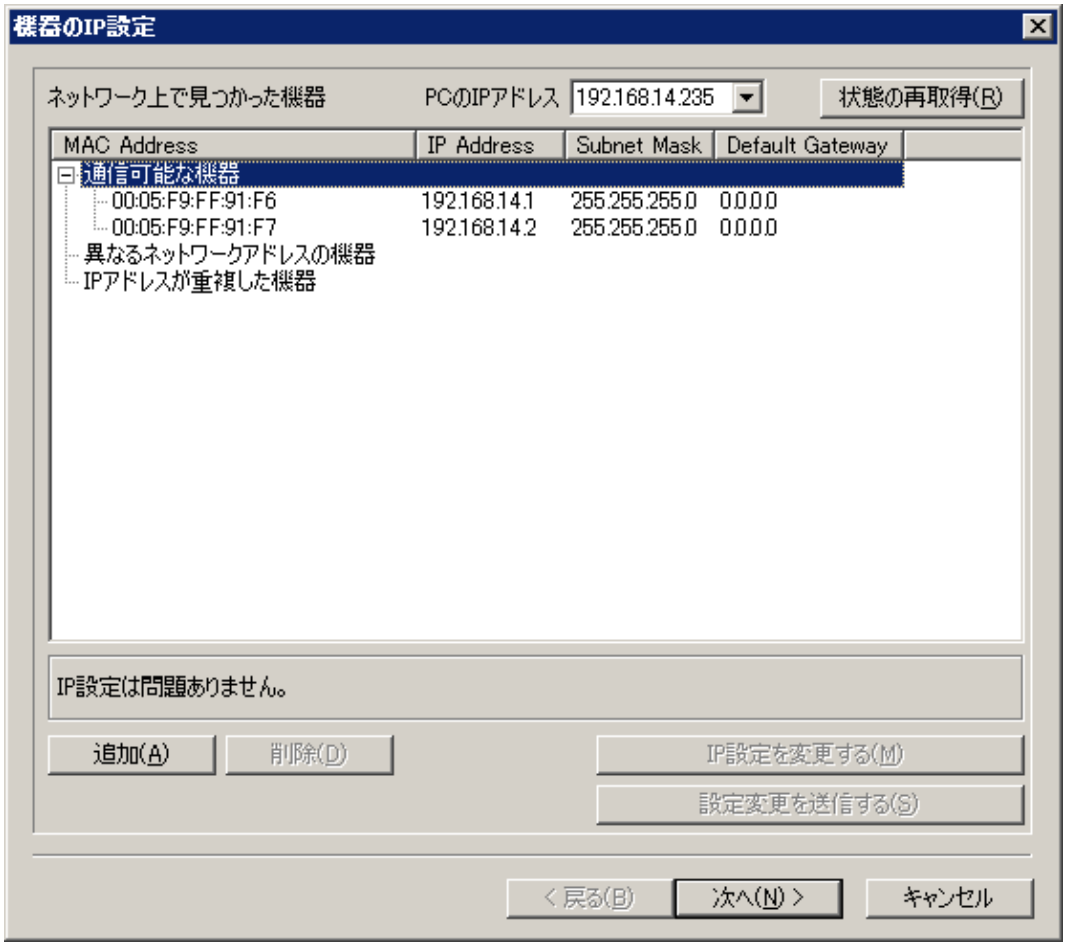
通　信

本ソフトウェアは、パソコンと DP-SP3 本体との間で TCP/IP で通信を行います。

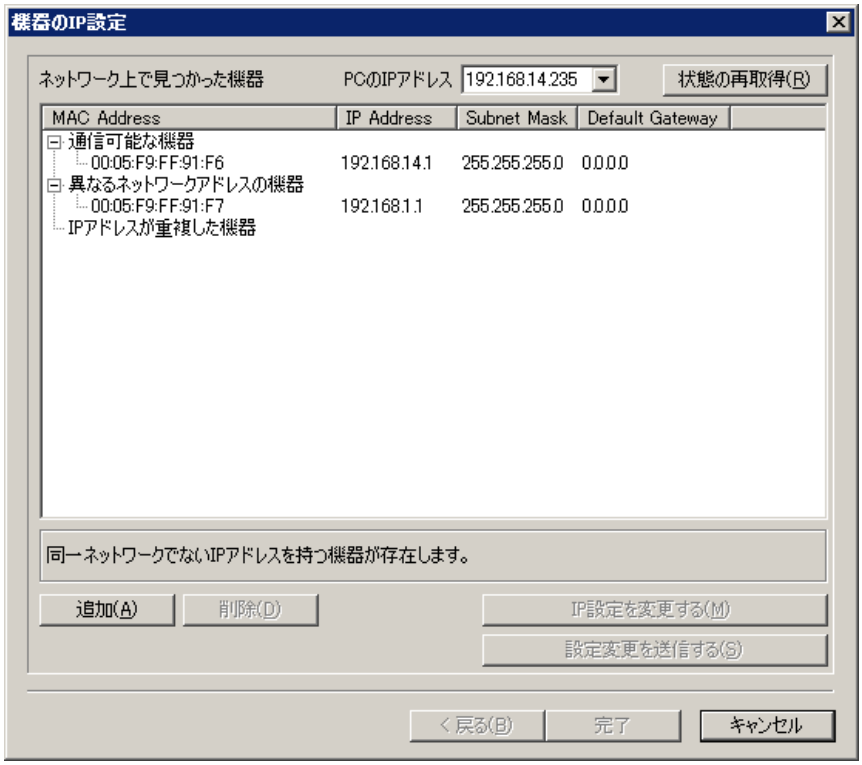
■ DP-SP3 本体との通信の接続設定方法

● パソコンと DP-SP3 本体との通信の設定手順

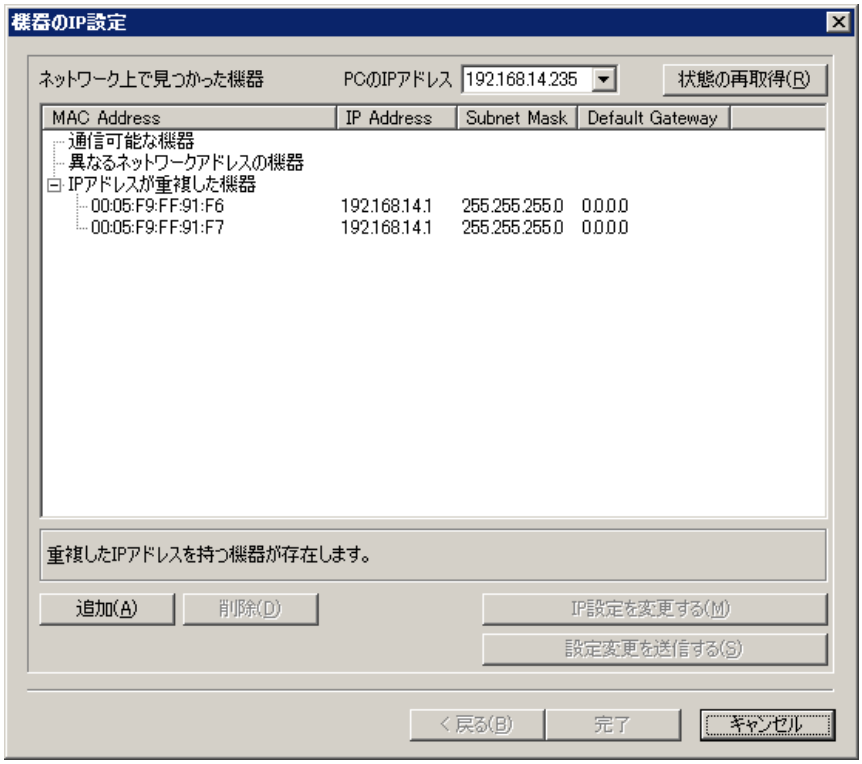
1 メニューから［通信（R）→ 接続設定（S）...］を選択し、「機器の IP 設定」画面を表示させる。
下図は、通信可能な機器として 2 台を検出した状態を表示しています。



[通信設定が正しく行われていない場合]
本ソウトウェアを実行しているパソコンと DP-SP3 本体のネットワークアドレスが異なる場合は、下図のように「異なるネットワークアドレスの機器」に表示され、本ソフトウェアによる DP-SP3 本体の操作ができません。



複数の DP-SP3 本体の IP アドレスが重複している場合は、下図のように「IP アドレスが重複した機器」に表示され、本ソフトウェアによる DP-SP3 本体の操作ができません。

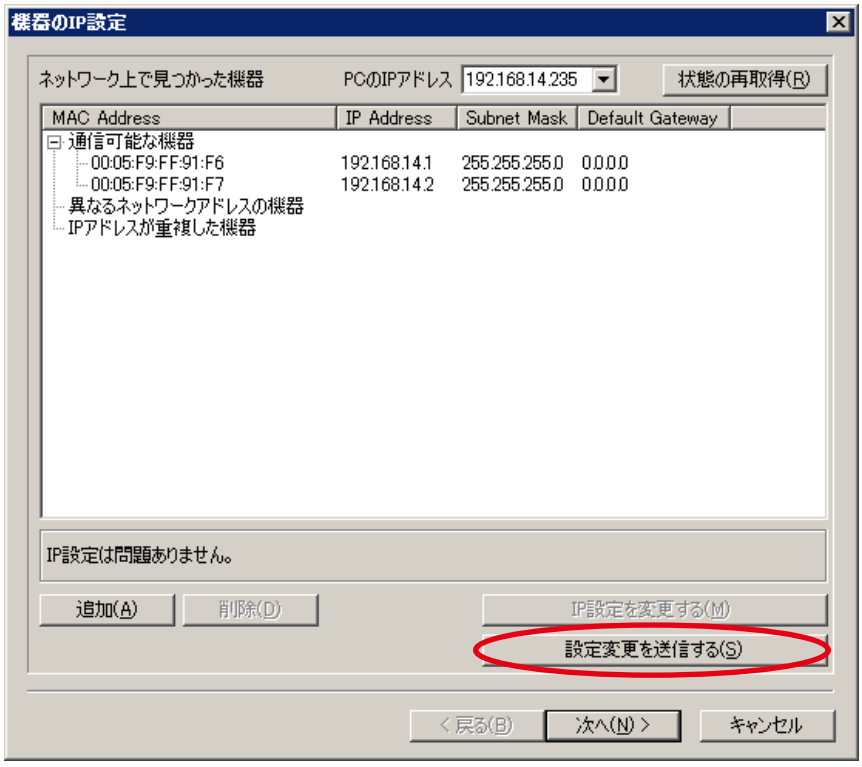


［通信設定を修正する］
以下の手順で設定をしなおしてください。

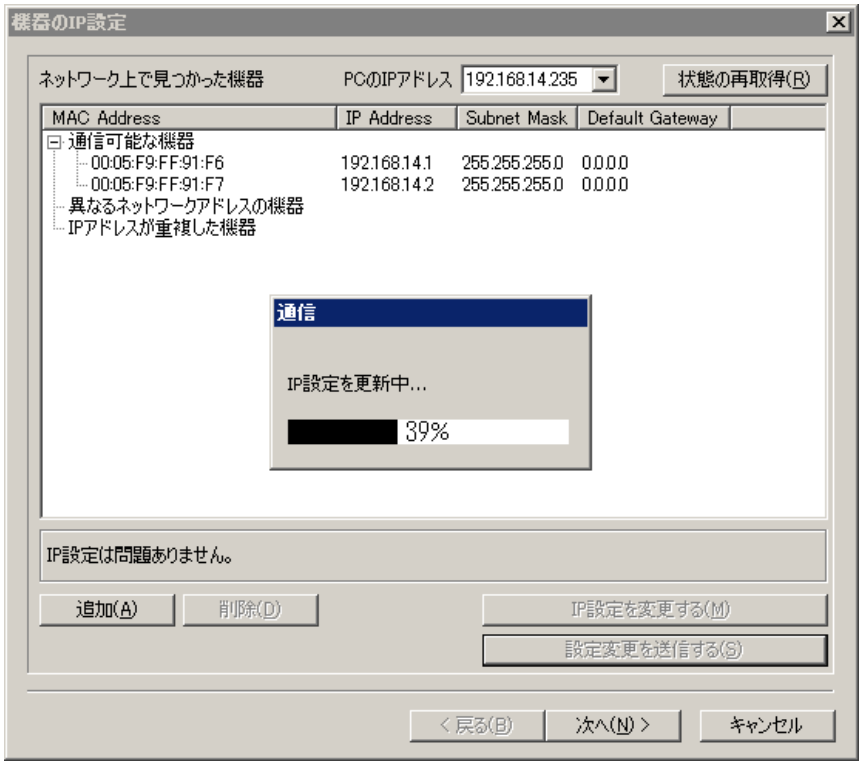
(1) 不具合の該当する DP-SP3 本体を選択して、［IP 設定を変更する（M)］をクリックする。
すると、「IP 設定」の画面が表示され、正しい IP アドレスを入力します。
※このとき、本ソフトウェアを実行しているパソコンのネットワークアドレスが強制指定されます。

※ デフォルトゲートウェイの設定を行うには、［Default Gateway の編集を有効にする］チェックボックスにチェックを入れます。

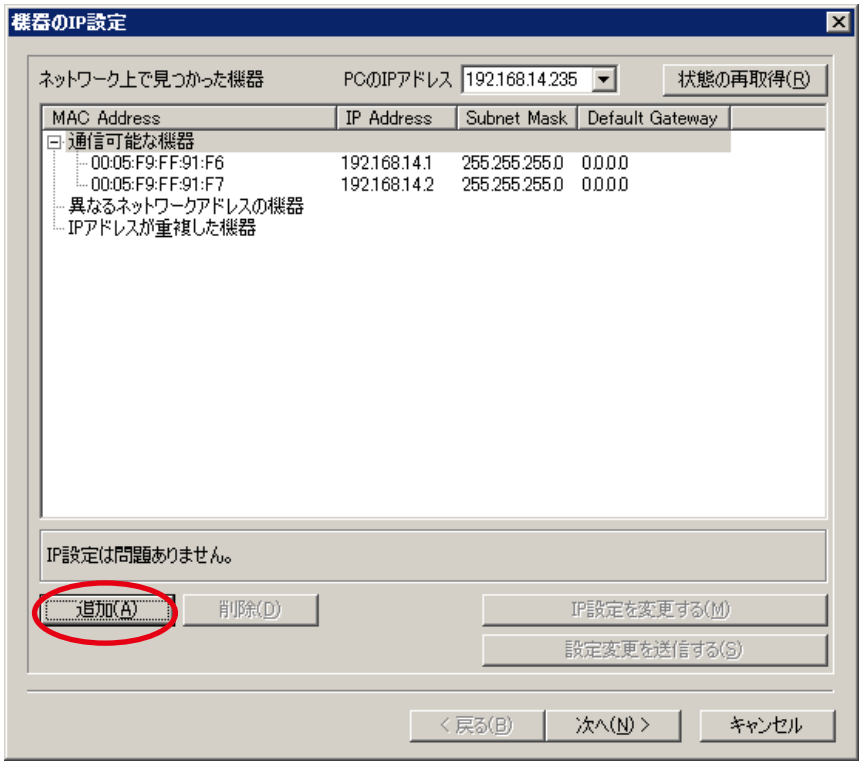
(2) 修正した IP 設定を DP-SP3 本体に反映させるには、［設定変更を送信する（S)］をクリックする。



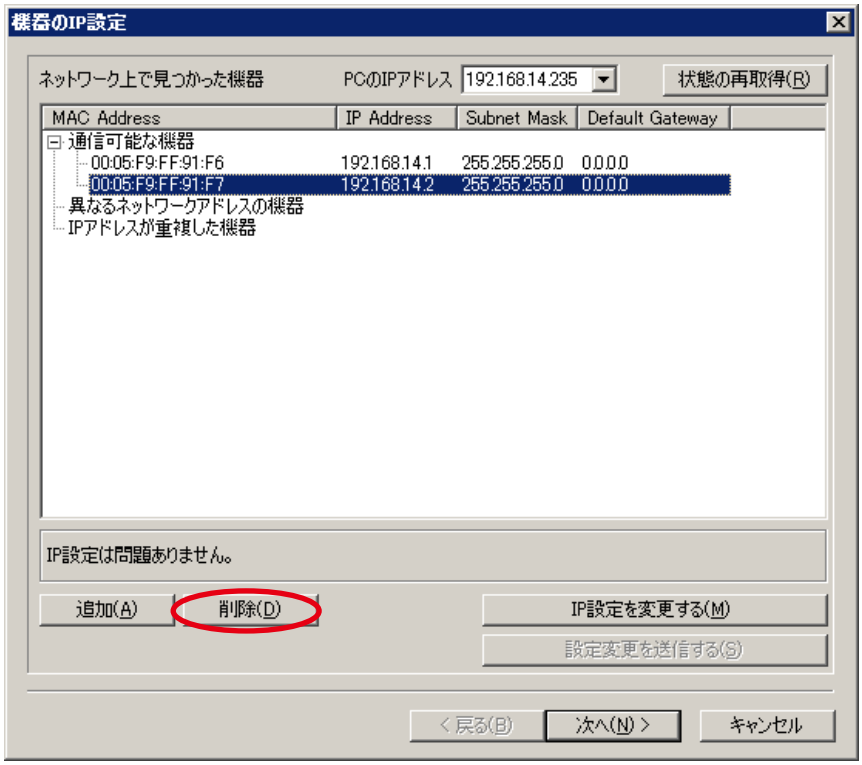
DP-SP3 本体に、IP の設定が送信され反映されます。



2 ルーターを中継して DP-SP3 本体への接続を行う場合は、[追加（A)] をクリックして、手動で接続先を設定する。



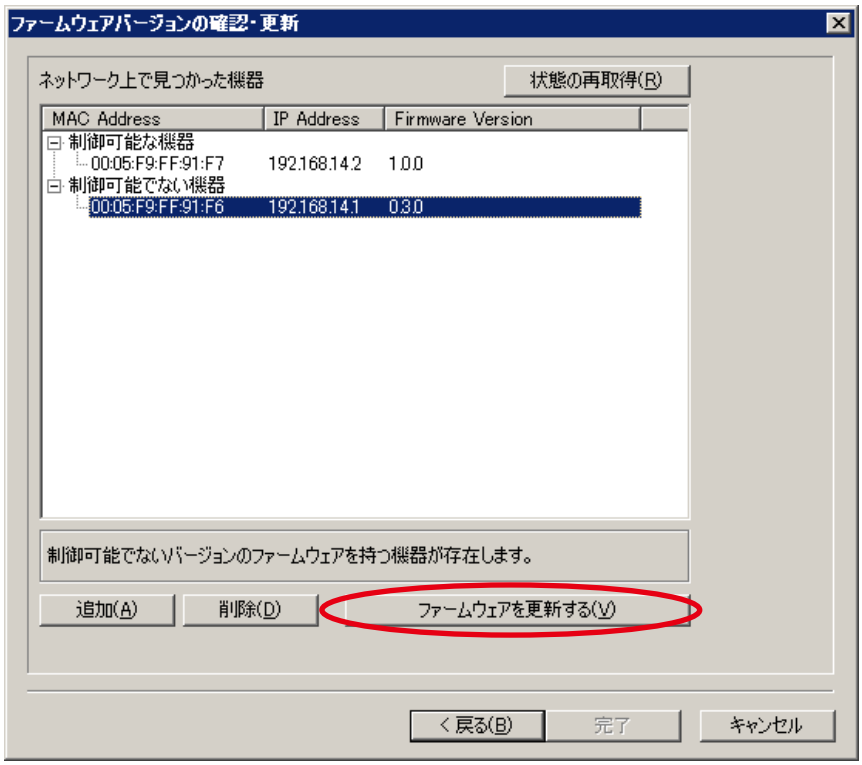
3 リストにある DP-SP3 本体のうち、接続対象から外したい DP-SP3 本体がある場合は、リストから該当する DP-SP3 本体を選択し、［削除（D)］をクリックする。



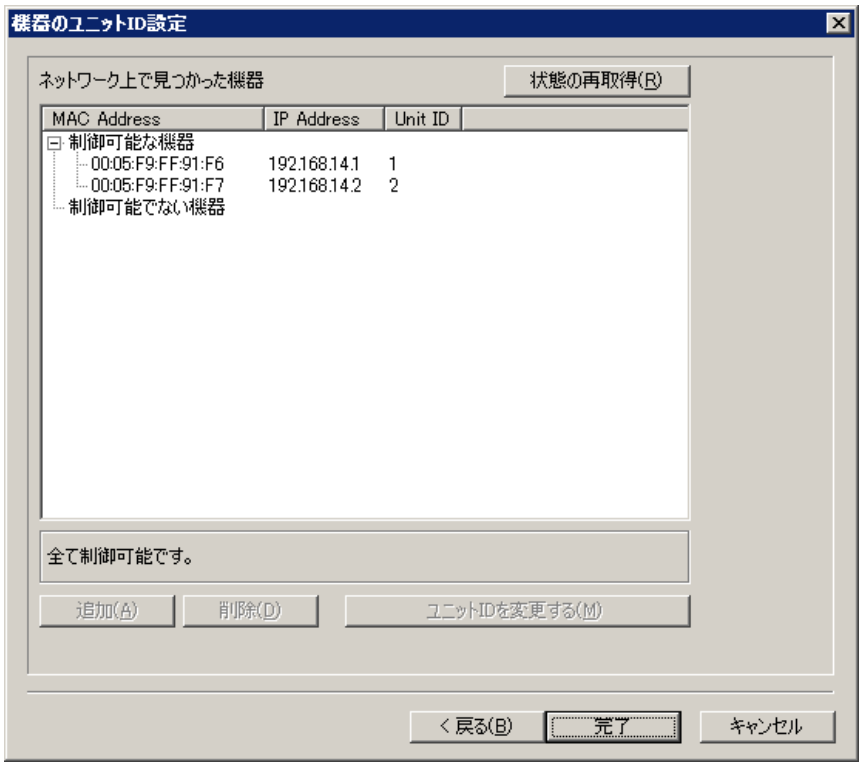
4 ［次へ（N)］をクリックする。

「ファームウェアバージョンの確認・更新」の画面が表示されます。
すべて制御可能な状態のときは、下図の画面になります。

(1) 制御できないバージョンのファームウェアを持つ DP-SP3 本体が見つかった場合には、「制御可能でない機器」リストに表示されています。制御可能にするには、[ファームウェアを更新する（V)] をクリックする。

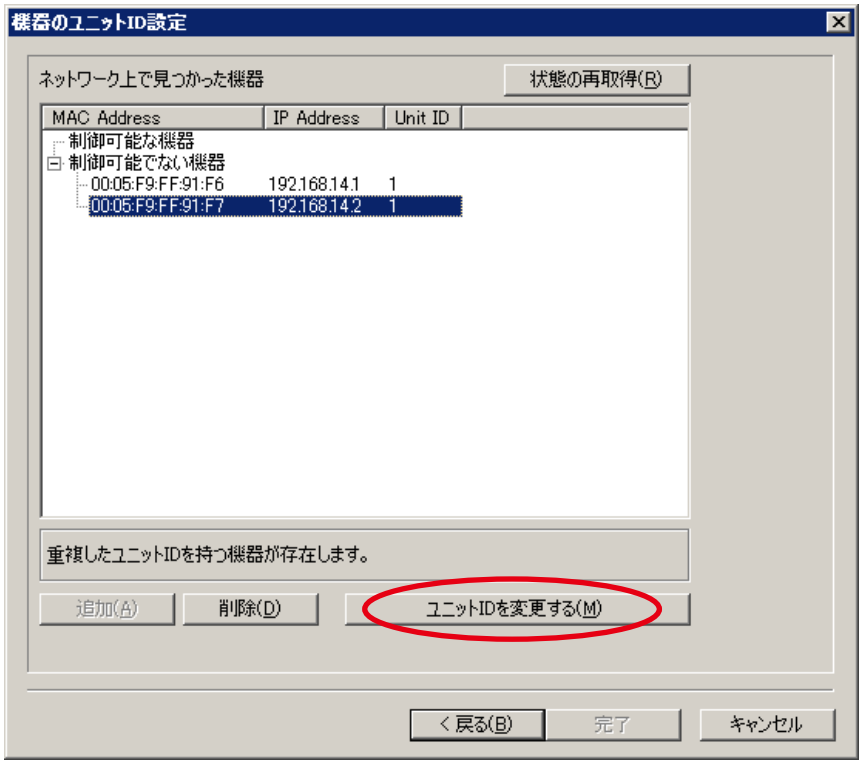


(2) 「ファームウェアバージョンの確認・更新」画面で［次へ（N)］をクリックする。
「機器のユニット ID 設定］画面が表示されます。
下図は、すべて制御可能な状態を表示しています。



5 ID を変更するには、［ユニット ID を変更する（M)］をクリックする。

DP-SP3 本体の工場出荷時の設定は、すべて ID = 1 であるため、その場合は下図のように表示されます。

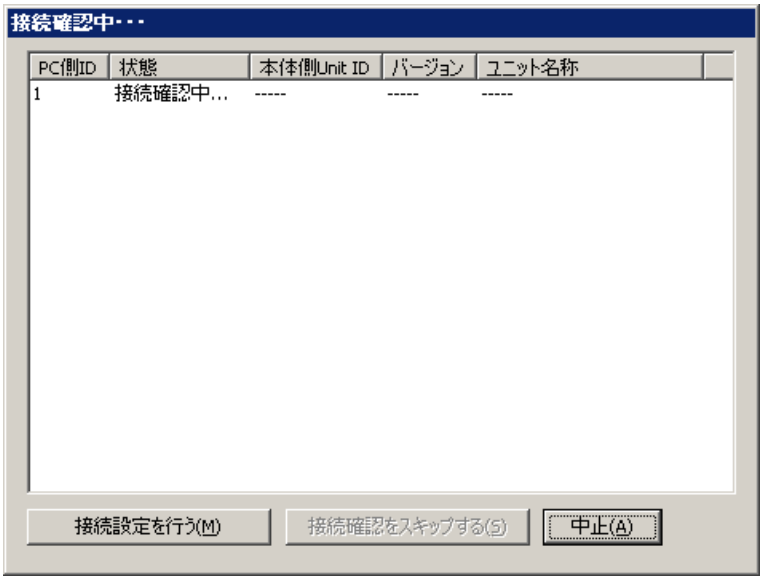


6 ［完了］をクリックする。

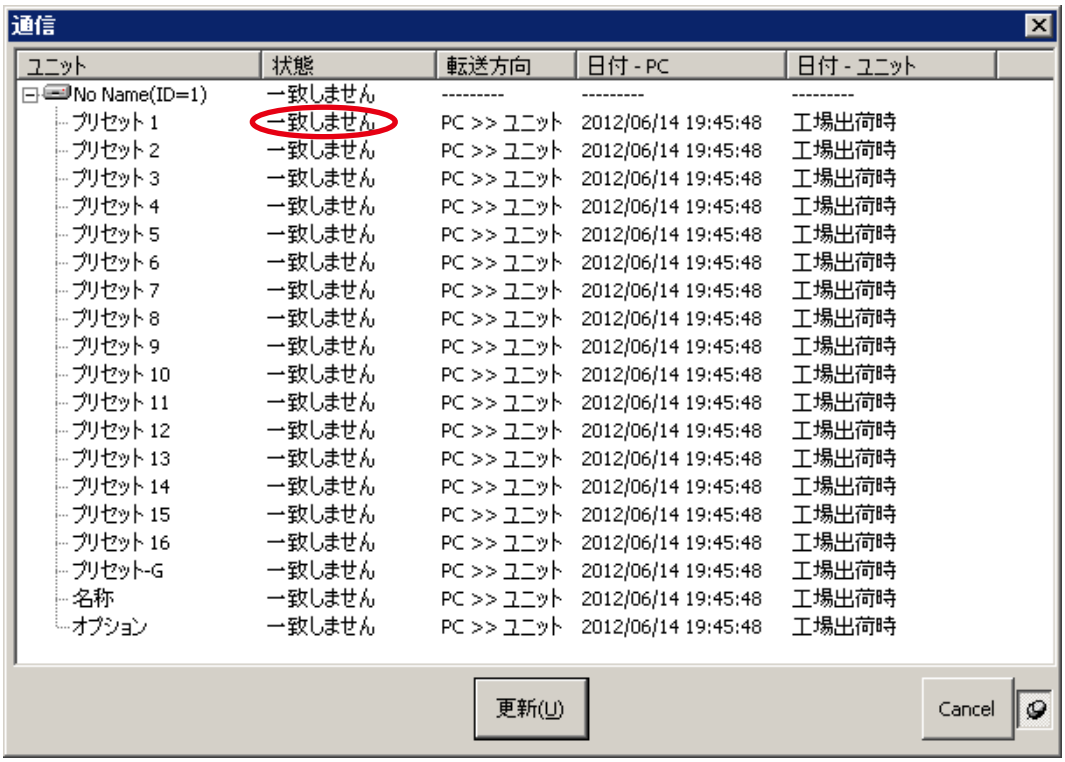
● パソコンと DP-SP3 本体との通信手順

1 メニューから次のいずれかを選択し、接続先を検出する。

・［通信（R）→ 接続（C）...］　　：パソコンと DP-SP3 本体との間で設定データが異なる場合に、転送方向を設定します。
・［通信（R）→ バルク送信（T）...］：すべての設定データをパソコンから DP-SP3 本体へ転送します。
・［通信（R）→ バルク受信（R）...］：すべての設定データを DP-SP3 本体からパソコンへ転送します。（本ソフトウェア上の設定データに作成済みユニットがない場合のみ可能）

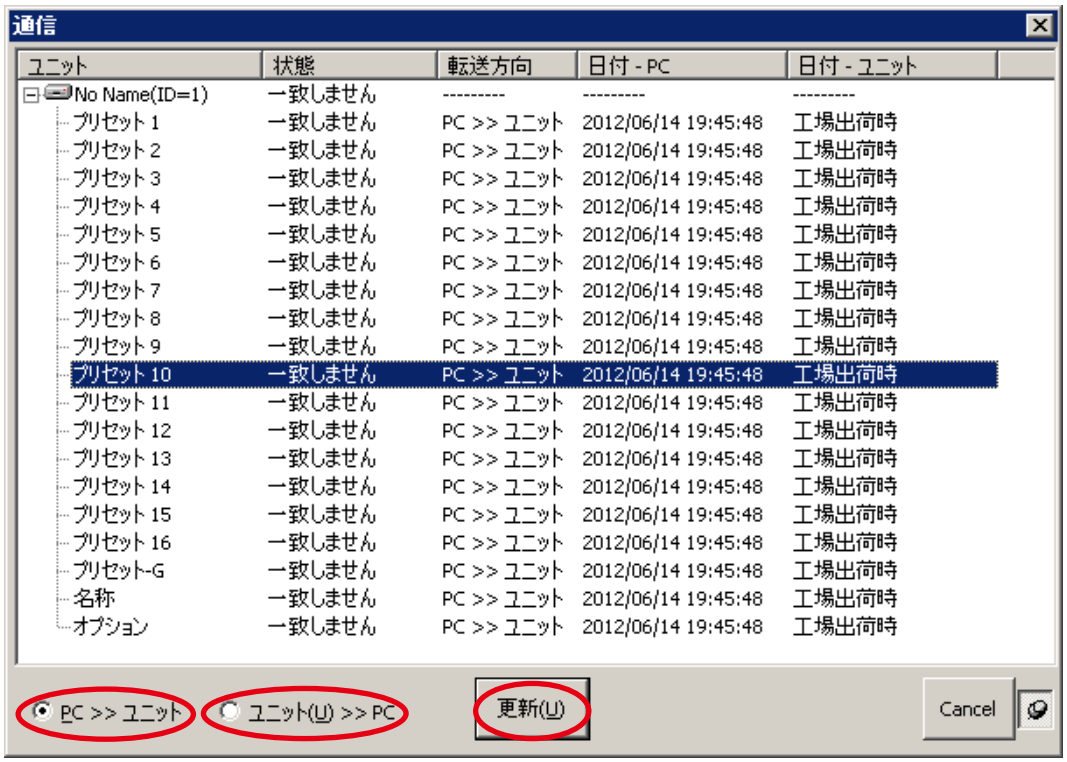


メニューから［接続（C）...］を選択した場合、パソコンと DP-SP3 本体間の設定データの内容を比較し一致しないときは、ユニットの状態の欄に「一致しません」と表示されます。



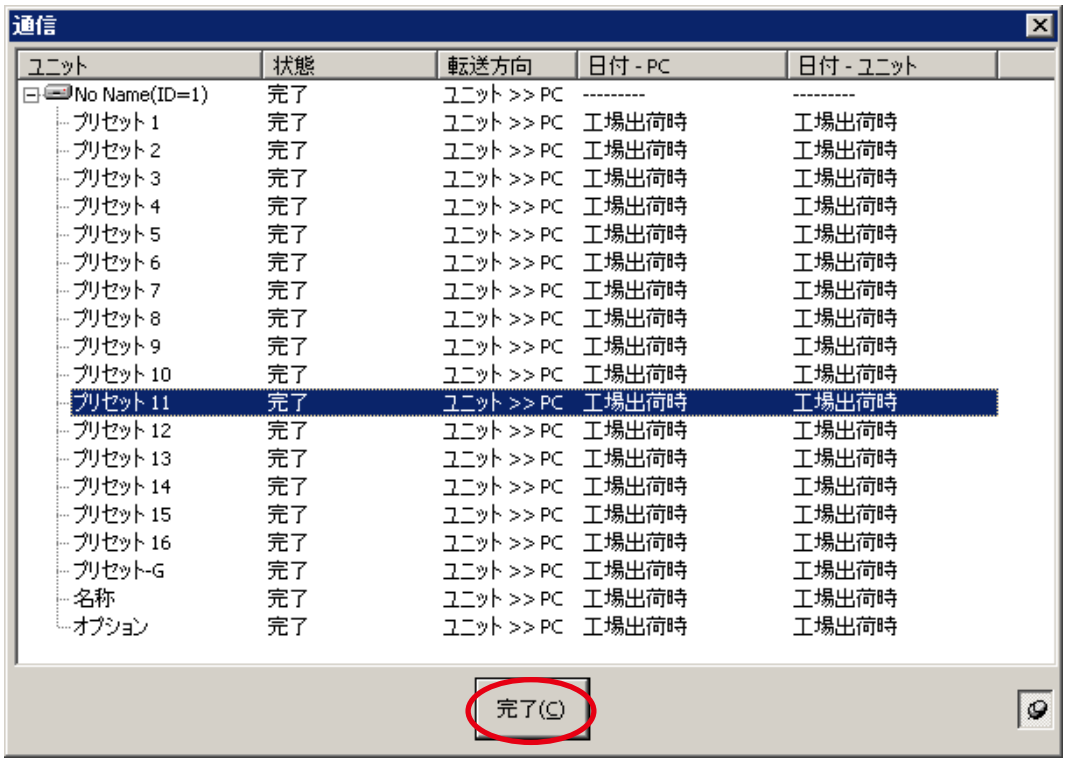
2 設定データを転送する場合は、[PC >> ユニット] または [ユニット>> PC] を選択して、[更新] をクリックする。

データの転送が開始されます。



3 データの転送終了後、[完了] をクリックする。

通信を終了するには、メニューから［通信（R）→ 切断（D）］を選択します。



WEB ブラウザーでのスピーカーパラメーター設定

WEB ブラウザーで以下の操作ができます。

・プリセット番号の選択
・クロスオーバーの設定
・マトリクスの設定

■ スピーカーパラメーターの設定のしかた

● WEB ブラウザーのトップページを表示させる

WEB ブラウザーで、スピーカーパラメーターを設定したい DP-SP3 の IP アドレスを URL 入力フィールドに入力する。

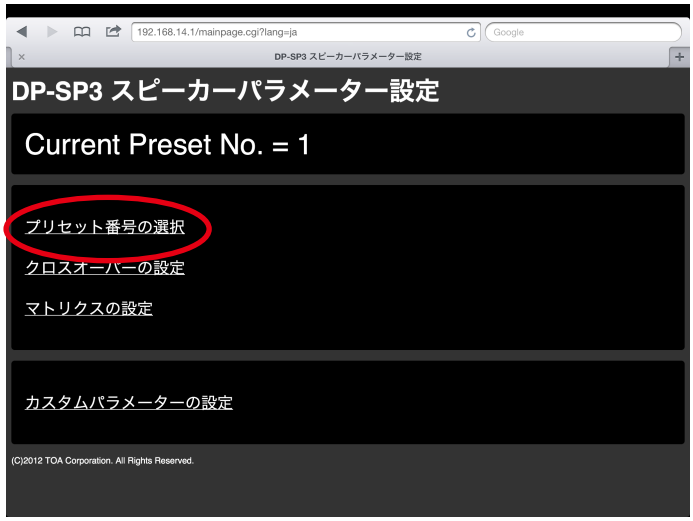
DP-SP3 スピーカーパラメーター設定のトップ画面が表示されます。

ご注意

DP-SP3 本体が PC ソフトウェアから接続中のときは以下の画面が表示され、この設定は行えません。

● プリセット番号を変更する

1 WEB ブラウザーのトップページから「プリセット番号の選択」をクリックする。

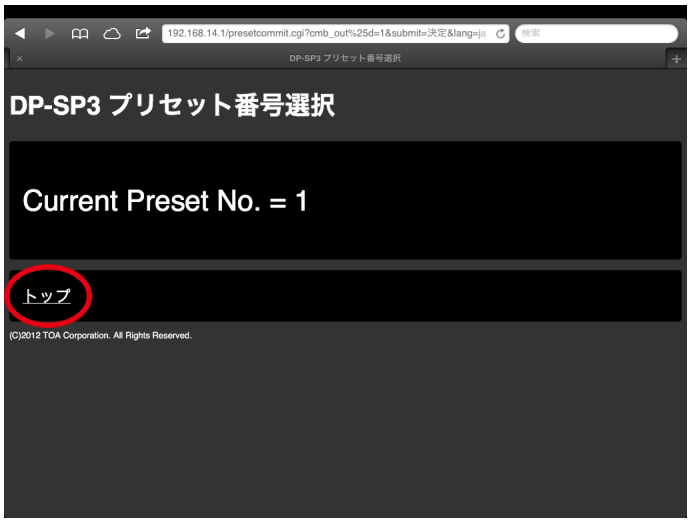


プリセット番号選択画面が表示されます。

2 変更したいプリセット番号を選択する。

3 ［決定］ボタンをクリックする。

DP-SP3 本体に設定変更が反映されます。

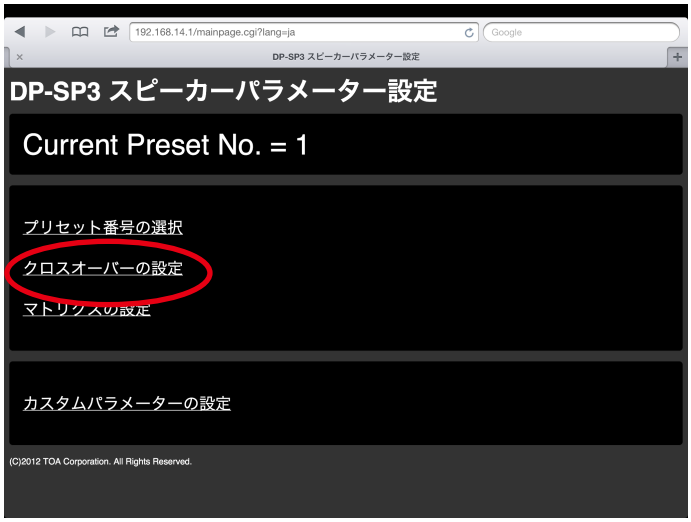


※「トップ」をクリックすると、トップページに戻ります。

● クロスオーバーの設定をする

DP-SP3 本体に用意されているスピーカーパラメーターから選択して、設定できます。

1 WEB ブラウザーのトップページから「クロスオーバーの設定」をクリックする。



クロスオーバー設定画面が表示されます。

2 設定したいチャンネルのクロスオーバー・コンビネーションを設定する。

「Single」「2-way」「3-way」から選択します。

3 「Template」リストから、使用するスピーカーを選択する。

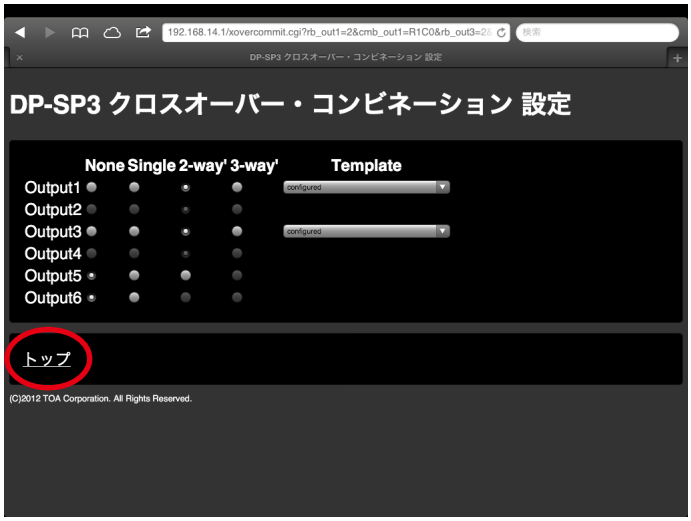
クロスオーバー・コンビネーションがチャンネルごとに設定されます。

メ　モ

- TOA のスピーカーごとにクロスオーバーと出力イコライザーの値があらかじめ設定されたデータ（スピーカープリセットデータ）が「Template」リストに入っています。
- スピーカープリセットデータを作成し、「Template」リストに追加することもできます。（☞ P. 62）

4 ［決定］ボタンをクリックする。

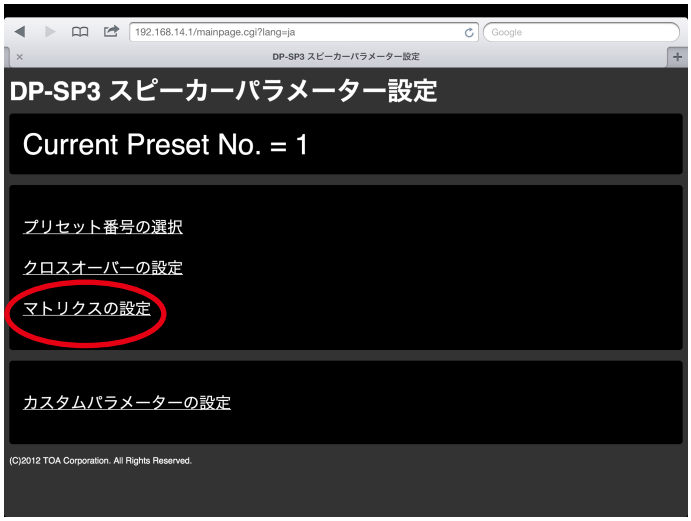
DP-SP3 本体に設定変更が反映されます。



※「トップ」をクリックすると、トップページに戻ります。

● マトリクスの設定をする

1 WEB ブラウザーのトップページから「マトリクスの設定」をクリックする。

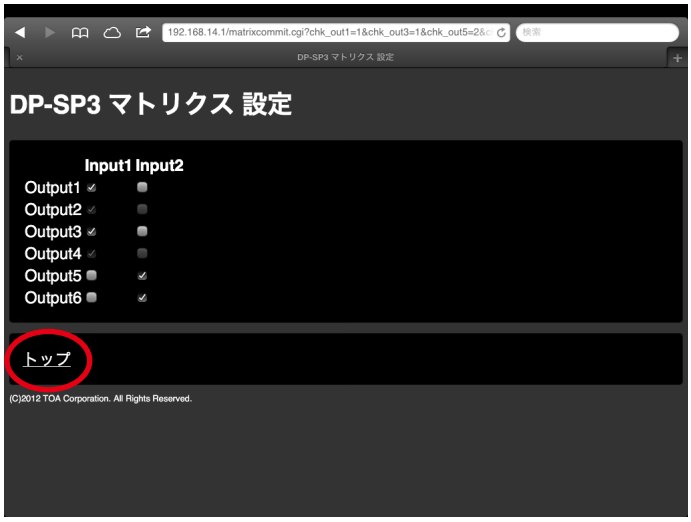


マトリクス設定画面が表示されます。

2 設定したい入出力のクロスポイントに対し、On/Off を設定する。

3 ［ストア］ボタンをクリックする。

DP-SP3 本体に設定変更が反映されます。



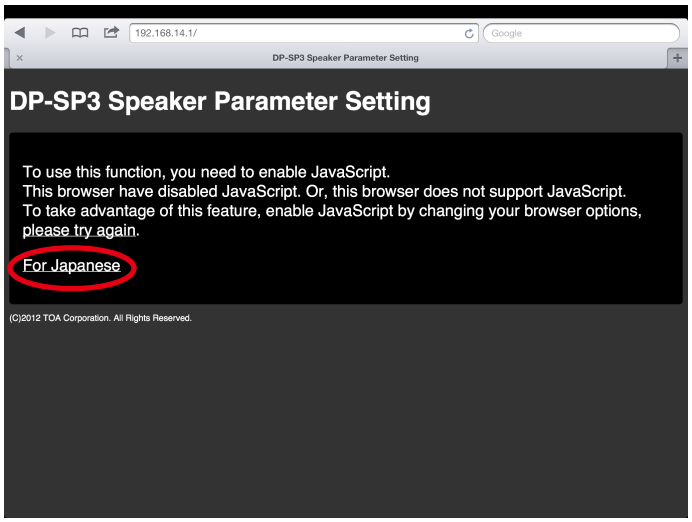
※「トップ」をクリックすると、トップページに戻ります。

● 変更情報を確認する

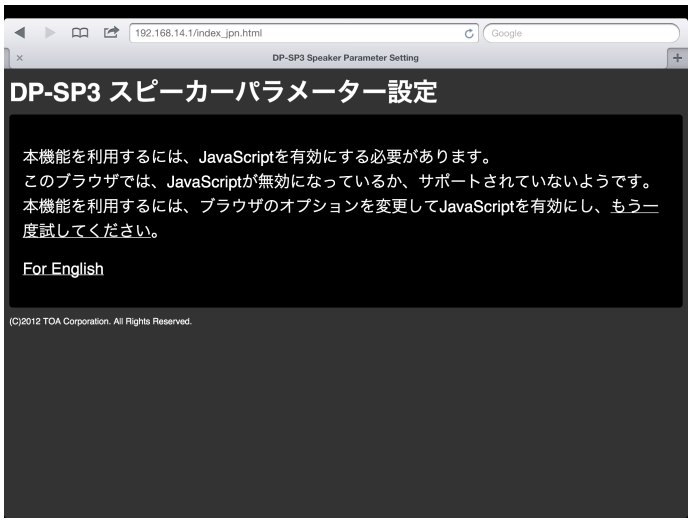
変更情報を確認するには、DP-SP3 本体を PC ソフトウェアで接続（☞ P. 55）してください。

ご注意

ブラウザーの設定によっては、JavaScript が無効にされている場合があります。
そのような状態で接続したときは、以下の画面が表示されます。



上記画面で「For Japanese」をクリックすると、日本語表記の画面が表示されます。



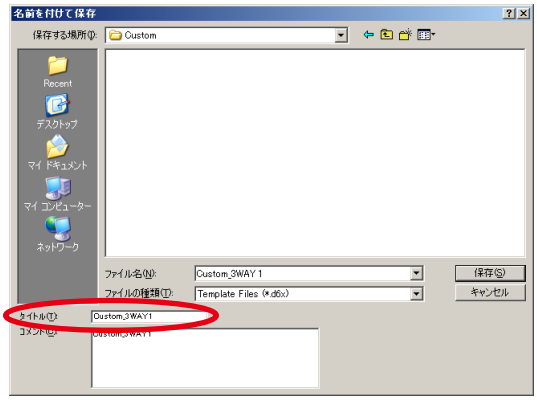
ブラウザーの設定を変更して、もう一度 DP-SP3 本体を PC ソフトウェアで接続してください。

● スピーカープリセットデータを自分で作成するには

PC ソフトウェアで作成したクロスオーバー・テンプレートファイル（☞ P. 17）を、カスタムテンプレートデータとして、本機へ保存できます。

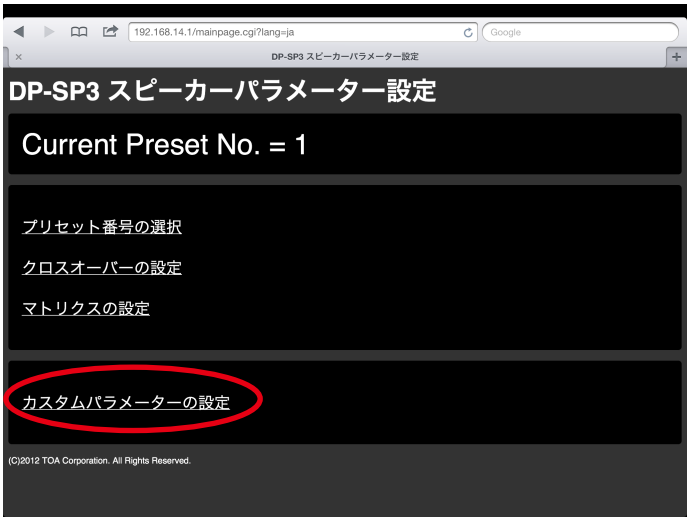
ご注意

クロスオーバー・テンプレートファイルの保存時、ファイル名とは別に、タイトル名称を必ずつけてください。
クロスオーバー・テンプレートファイルのタイトル名称がスピーカープリセットデータの名称になります。
タイトル名称の入力文字に制限はありません。



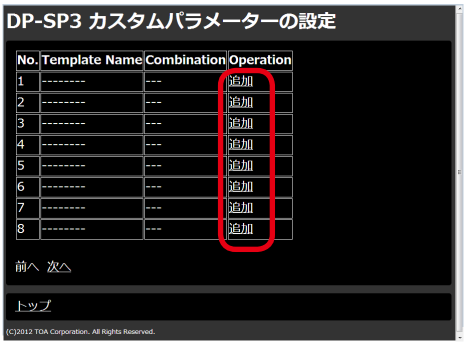
［カスタムテンプレートの追加のしかた］

1 WEB ブラウザーのトップページから、「カスタムパラメーターの設定」をクリックする。



カスタムパラメーター設定画面が表示されます。

2 ［追加］ボタンをクリックする。



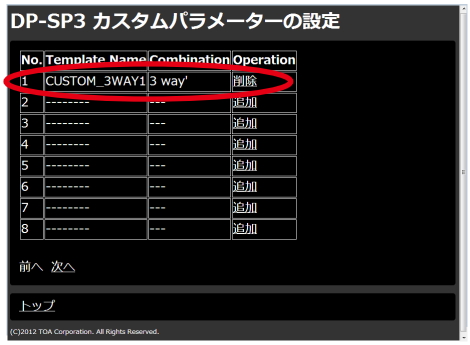
パラメーター追加画面が表示されます。

3 あらかじめ作成したクロスオーバー・テンプレートファイルを選択し、［決定］ボタンをクリックする。

パラメーター追加完了画面が表示されます。

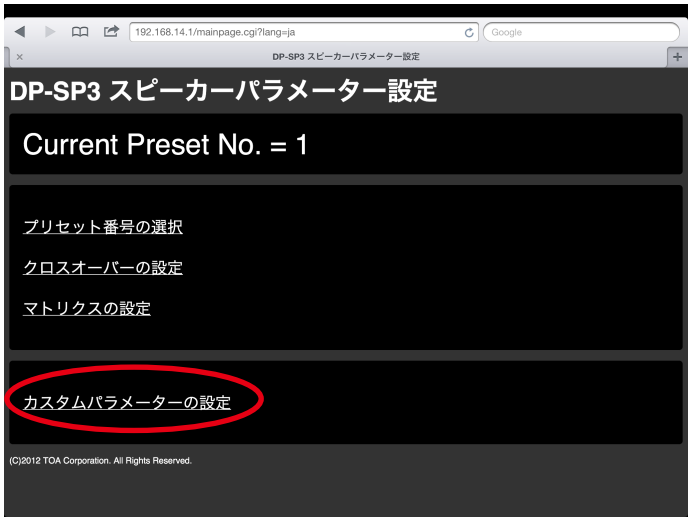
4 追加されたことを確認する。

「カスタムパラメーターの設定」をクリックしてカスタムパラメーター設定画面を表示させると、新たなパラメーターが追加されたことを確認できます。



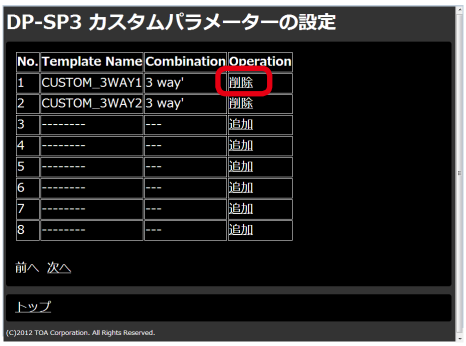
[カスタムテンプレートの削除のしかた]

1 WEB ブラウザーのトップページから、「カスタムパラメーターの設定」をクリックする。

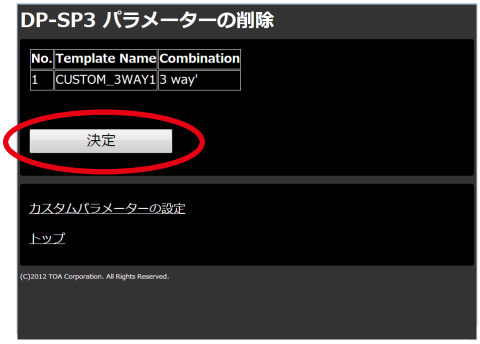


カスタムパラメーター設定画面が表示されます。

2 削除したいパラメーターの[削除]ボタンをクリックする。



パラメーター削除画面が表示されます。

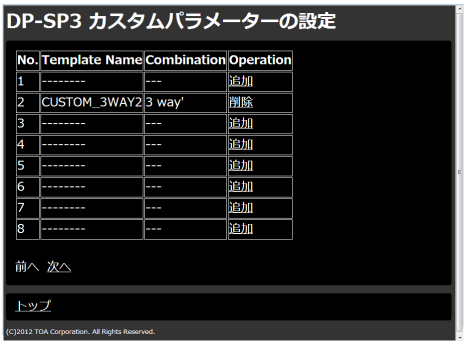


3 [決定] ボタンをクリックする。

パラメーター削除完了画面が表示されます。

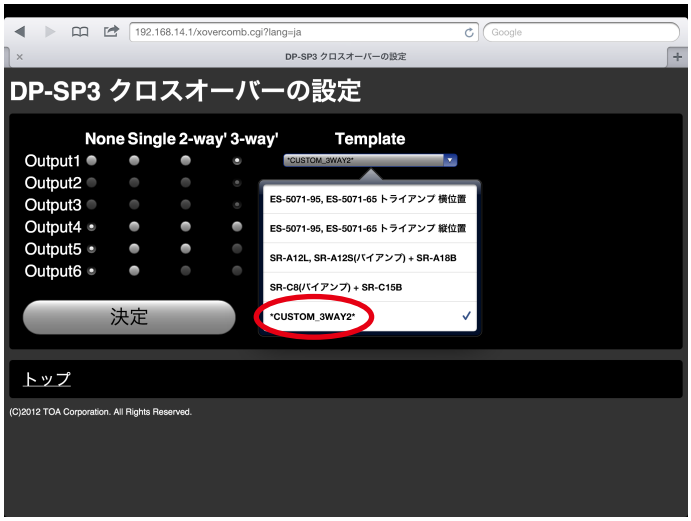
4 削除されたことを確認する。

「カスタムパラメーターの設定」をクリックしてカスタムパラメーター設定画面を表示させると、パラメーターが削除されたことを確認できます。



[カスタムテンプレートデータの使いかた]

追加したカスタムパラメーターは、クロスオーバー設定画面（☞ P. 59）で、スピーカープリセットデータとして、選択リストに表示されます。
クロスオーバー・テンプレートファイルのタイトル名称がスピーカープリセットデータの名称になります。
カスタムパラメーターであることを示すために、名称の前後にアスタリスク（*）が付加されます。



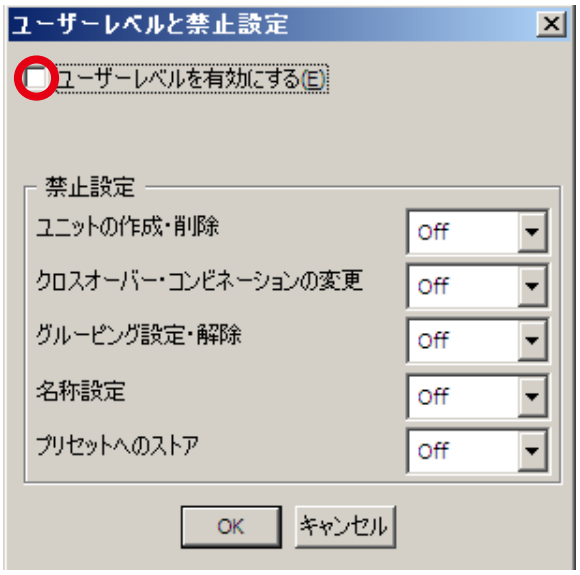
ユーザーレベルと禁止設定

DP-SP3 PC ソフトウェアは、以下の設定でユーザーレベルを使い分けることができます。
ユーザーレベルは次の 2 種類です。

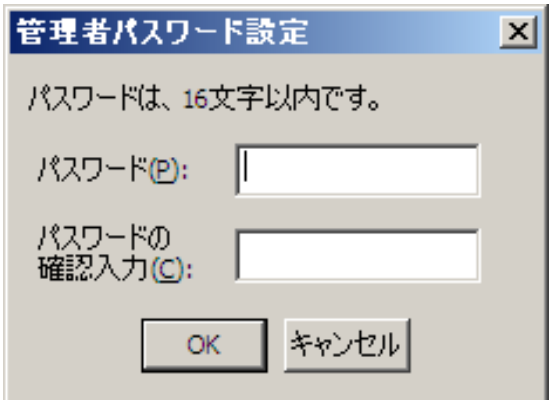
- 管理者　　：ユーザーレベル設定をしていない場合は、ユーザーレベルは自動的に管理者になります。また、ログオン画面で管理者としてログオンした場合は、ユーザーレベルは管理者になります。
- オペレーター：ログオン画面で管理者としてログオンしなかった場合は、ユーザーレベルはオペレーターになります。

■ ユーザーレベルを有効にする

1 メニューから［オプション（O）→ ユーザーレベルと禁止設定（S）...］を選択する。
ユーザーレベルと禁止設定のダイアログが表示されます。



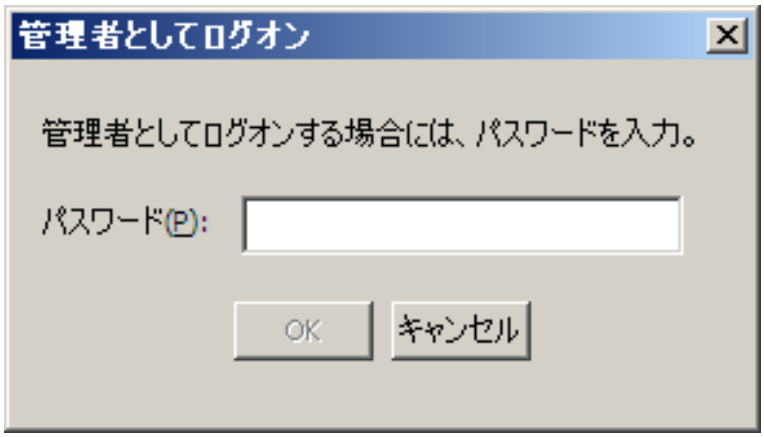
2 ［ユーザーレベルを有効にする（E)］のチェックボックスをクリックする。
管理者パスワード設定ダイアログが表示されます。



3 「パスワード（P)」欄および「パスワードの確認入力（C)」欄に半角 16 文字以内のパスワードを入力して、［OK］をクリックする。

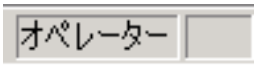
■ ユーザーレベルを有効にしたときのログオンのしかた

ユーザーレベルを有効にすると、次回そのファイルを開いたときに、次のようなログオン画面が表示されます。



管理者としてログオンする場合は、あらかじめ設定したパスワードを入力して［OK］をクリックしてください。
それ以外の方法でログオン画面が閉じられた場合は、オペレーターとしてログオンします。
ログオンしたユーザーレベルは、メイン画面下部ステータスバーの右側に表示されます。

または



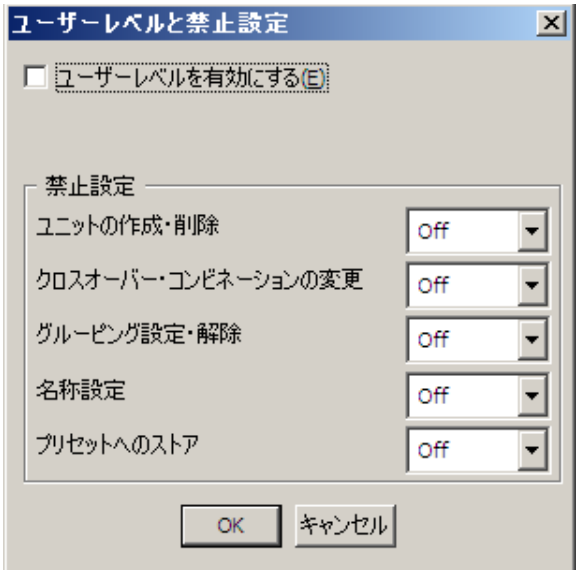
■ 禁止設定

● 禁止できる項目

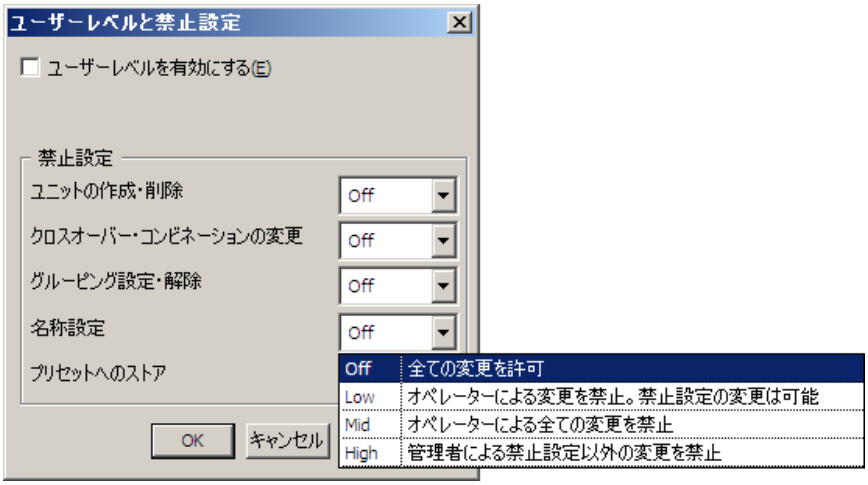
・ユニットの作成・削除・入出力変更
・クロスオーバー・コンビネーションの変更
・グルーピング設定の変更
・名称の変更
・プリセットへのストア
・各ボックスのパラメーター変更

● 禁止設定のしかた

1 メニューから［オプション（O）→ ユーザーレベルと禁止設定（S）...］を選択する。
ユーザーレベルと禁止設定のダイアログが表示されます。



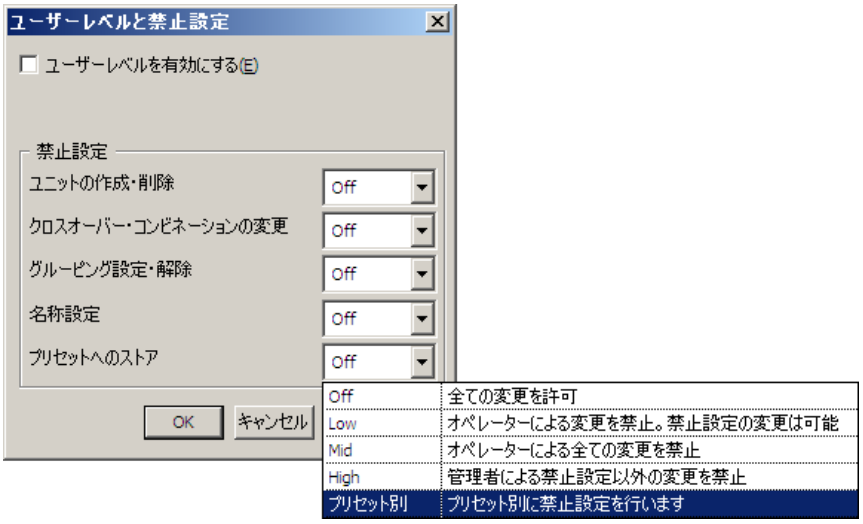
2 禁止設定の各項目のプルダウンメニューから禁止レベルを選択する。



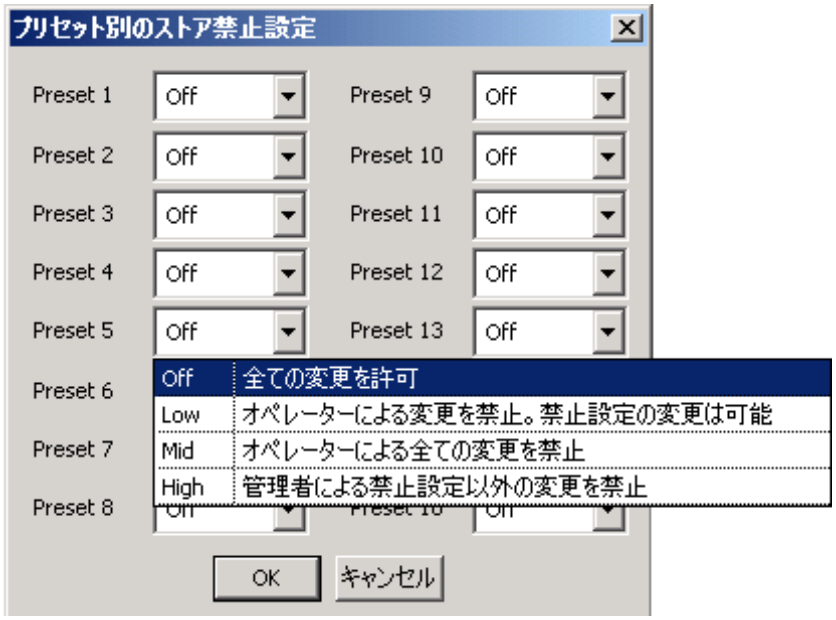
各項目について、4 段階の禁止レベルを設定できます。

Off	管理者、オペレーターともに、その項目および禁止設定を変更します。
Low	管理者は、その項目および禁止設定を変更できます。 オペレーターは、その項目の変更はできませんが、禁止設定の変更はできます。
Mid	管理者は、その項目および禁止設定を変更できます。 オペレーターは、その項目および禁止設定の変更をできません。
High	管理者は、その項目の変更はできませんが、禁止設定の変更はできます。 オペレーターは、その項目および禁止設定の変更をできません。

プリセットへのストアは、16 個のプリセットに対し別々の禁止設定を割り当てることができます。



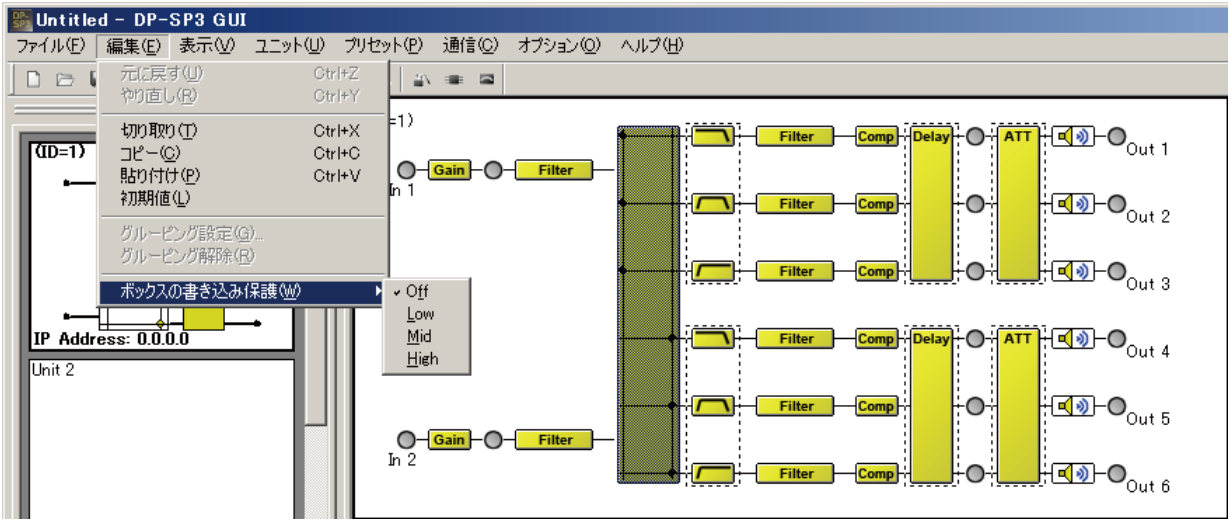
プリセットへのストアで「プリセット別」を選択すると、プリセット別のストア禁止設定ダイアログが表示され、プリセット別に 4 段階の禁止レベルを設定できます。



3 **各ボックスのパラメーターの変更の禁止設定をする。**

フロービューでボックスを選択した状態で、メニューから［編集（E）→ ボックスの書き込み保護（W）］を選択します。

例：フィルターボックスの禁止設定の場合



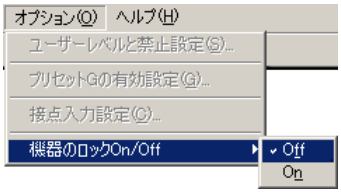
機器のミュートスイッチロック ON/OFF 設定

DP-SP3 本体の前面パネルにあるミュートスイッチの操作を無効にすることができます。

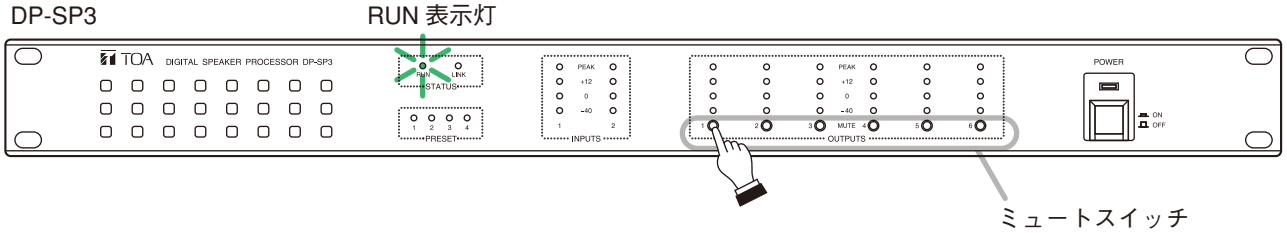
1 **機器のロック設定を実行したい DP-SP3 をパソコンと通信状態にする。**

2 **メニューから［オプション（O）→ 機器のロック On/Off → On または Off］を選択する。**

On：ミュートスイッチの操作は無効になります。
Off：ミュートスイッチの操作は有効になります。



ミュートスイッチロック On 時に、DP-SP3 のミュートスイッチのいずれかを操作すると、RUN 表示灯が緑色に点滅します。

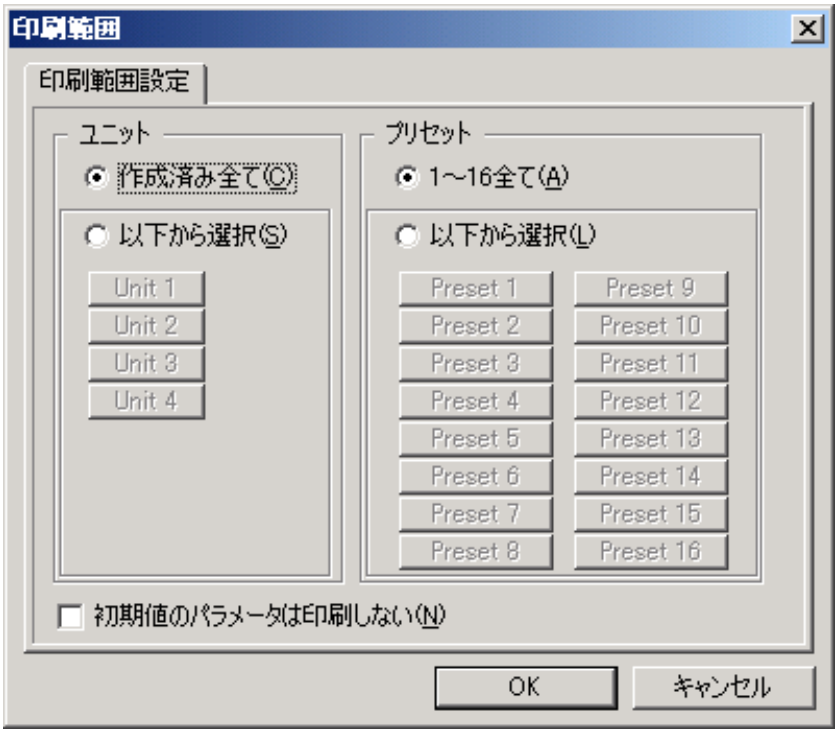


設定データを印刷する

作業中のファイルの設定データを印刷できます。

1 メニューから［ファイル（F）→ 印刷（P）...］を選択する。

印刷範囲のダイアログが表示されます。



2 印刷するユニットを設定する。

作成済みのすべてのユニットのデータを印刷するときは「作成済み全て（C)」を選択してください。
任意のユニットのデータを印刷するときは「以下から選択（S)」を選択して、印刷したいユニットのボタンをクリックしてください。

3 印刷するプリセットを設定する。

16 個のプリセットすべてのデータを印刷するときは「1 ～ 16 全て（A)」を選択してください。
任意のプリセットのデータを印刷するときは「以下から選択（L)」を選択して、印刷したいプリセット番号のボタンをクリックしてください。

※フィルターおよびクロスオーバーの初期値を印刷する必要がない場合は、［初期値のパラメータは印刷しない（N)］のチェックボックスをクリックします。
これにより、印刷に必要な用紙の枚数と印刷時間を節約できます。

4 ［OK］をクリックする。

接点入力端子

■ 概 要

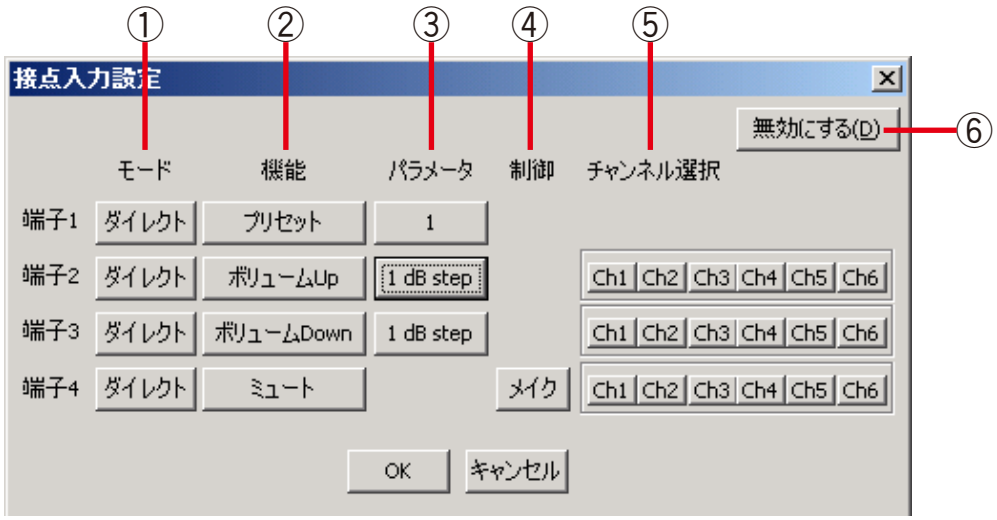
DP-SP3 本体には、4 つの接点入力端子を装備しており、プリセットメモリーの切り換え、出力音量制御、出力ミュート制御を行います。

工場出荷時での初期設定は、プリセットメモリーの切り換え機能になっており、端子 1 ～ 4 がプリセット番号 1 ～ 4 に割り当てられています。端子 1 ～ 4 と端子 C を短絡することにより、プリセット番号 1 ～ 4 を呼び出せます。

呼び出されるプリセット番号の変更や他の機能への変更は接点入力設定画面で行います。

■ 接点入力設定画面の説明

接点入力設定を行うには、メニューから［オプション（O）→ 接点入力設定（C）...］を選択します。



① モード

各端子に対する入力タイプとして、ダイレクトとバイナリがあります。
ダイレクト：端子 1 ～ 4 の各端子と端子 C を短絡して制御します。
バイナリ　：端子 1 ～ 4 のうち任意の端子と端子 C に短絡、開放の状態を与えて制御します。
　　バイナリに設定するときは、端子 4 から順番に設定します。

② 機能

各端子に機能を割り当てます。
工場出荷時の初期設定では、すべての端子が「プリセット」になっています。
プリセット　　：プリセットメモリーの切り換え
ボリューム Up/Down ：出力音量制御
ミュート　　：出力ミュート
無し　　：端子に機能を設定していません。

③ パラメータ

端子の機能を「プリセット」に割り当てたときには対応するプリセット番号を、「ボリューム UP/DOWN」に割り当てたときにはステップを設定します。

④ 制御

端子の機能で「ミュート」を割り当てたときのみ制御の設定をします。
メイク：各端子と端子 C を短絡するとミュートが ON、開放すると OFF になります。
パルス：各端子と端子 C を短絡する度にミュートの ON/OFF が反転します。

⑤チャンネル選択

出力音量制御、出力ミュート制御をする対象のチャンネルを選択します。

⑥［無効にする］ボタン／［有効にする］ボタン

［無効にする］ボタンをクリックすると、接点入力からの制御ができなくなり、［有効にする］ボタンに変わります。

無効にする前に行った制御のうち、プリセット番号は保持されますが、出力音量制御、出力ミュート制御はクリアされます。

もう一度制御するには、［有効にする］ボタンをクリックします。

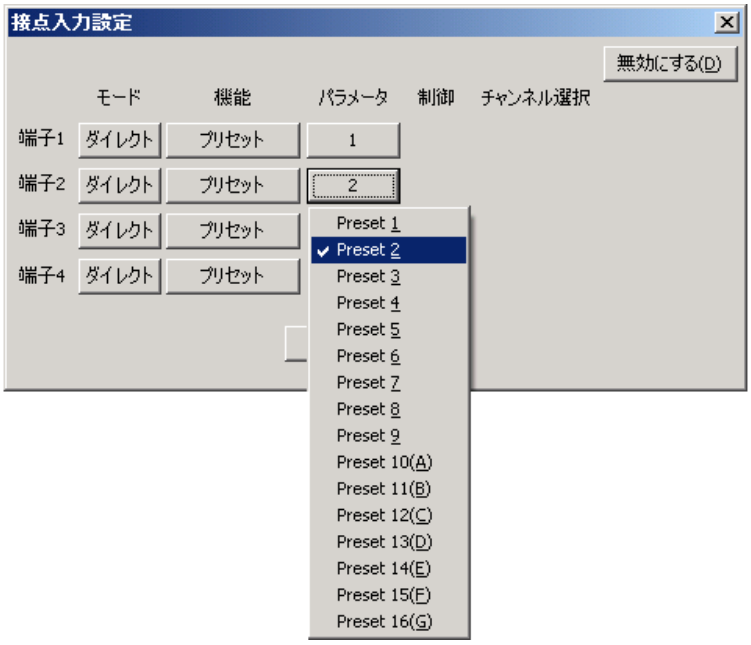
■ 接点入力への機能の割り付け

● プリセットメモリーの切り換え

［ダイレクトモードのとき］

1 モードを［ダイレクト］、機能を［プリセット］に設定する。

2 パラメータのボタンをクリックして、プルダウンメニューからプリセット番号を選択する。



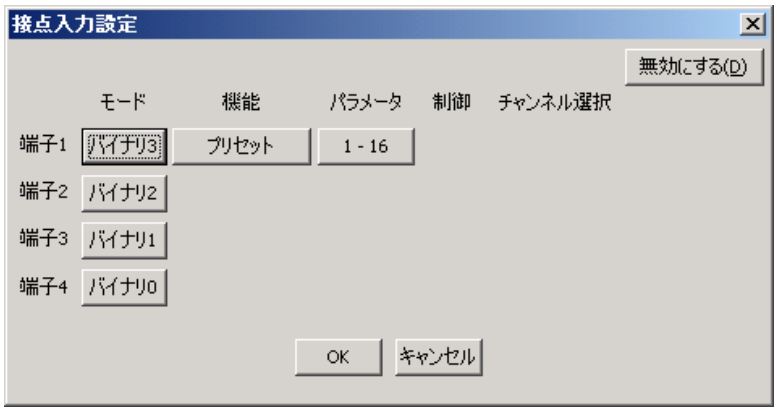
［バイナリモードのとき］

ご注意

モードをバイナリでプリセット切り換えをするときは、その他の端子は出力音量制御、出力ミュート制御のどちらかしか設定できません。

4 つの接点で 5 つ以上のプリセットを切り換えたいときや､他の機能により必要な接点数が得られないときは、モードを［バイナリ］にすることで、より少ない接点で切り換え先のプリセット数を増やすことができます。
※ プリセットの使用数に応じて、必要な端子のモードを［バイナリ］に設定します。
（ ）内の端子番号は自動的に設定されます。

使用プリセット数	モードを［バイナリ］に設定する端子
プリセット 1、2	端子 4
プリセット 1 ～ 4	端子 3、(4)
プリセット 1 ～ 8	端子 2、(3、4)
プリセット 1 ～ 16	端子 1、(2、3、4)



● 出力音量制御

出力アッテネーターに設定されている値に対して、オフセット値を与えます。

ご注意

- 出力音量制御は、接点入力されている DS-SP3 本体に対してのみ行えます。
- 出力チャンネルをグループに設定して、グループ単位で制御を行います。
- 1 つのグループに属しているチャンネルは、ユニットの出力アッテネータ値が同じになるのではなく与えられるオフセット値が同じになります。
- 同一チャンネルを複数のグループに割り当てることはできません。
- 制御の範囲は出力アッテネータに設定可能な値です。(– ∞～ 0 dB)
- 与えられたオフセット値は、電源を切っても次回起動時に再現されます。

端子に 1 グループのボリューム Up またはボリューム Down の機能を割り当てます。

1 機能を［ボリューム Up］または［ボリューム Down］に設定する。

2 パラメータをプルダウンメニューから選択する。

3 音量制御の対象となるチャンネルを選択する。

● 出力ミュート制御

端子にミュート ON/OFF 機能を割り付けます。

ご注意

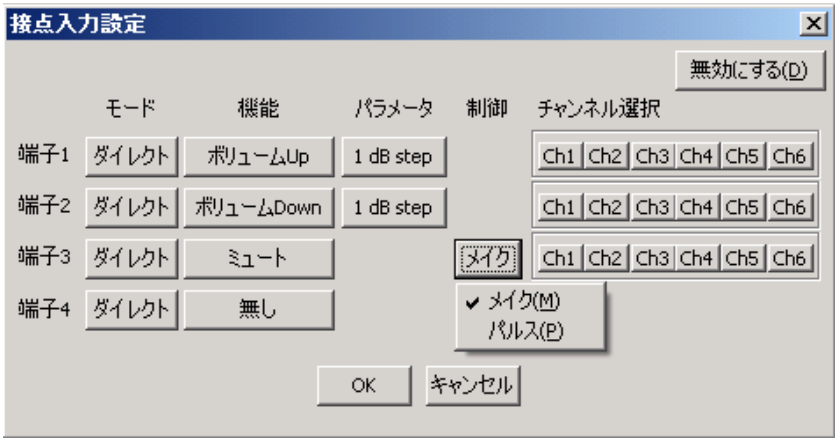
- 出力ミュート制御は、接点入力されている DS-SP3 本体に対してのみ行えます。
- 出力チャンネルをグループに設定して、グループ単位で制御を行います。
- 制御方式がパルスのとき、出力ミュート状態は電源を切っても次回起動時に再現されます。
- DP-SP3 PC ソフトウェアで出力ミュートが［ON］されているチャンネルに対しては、接点入力側で出力ミュート解除は行えません。

1 モードを［ダイレクト］を設定する。

2 機能を［ミュート］に設定する。

3 制御を［メイク］または［パルス］に設定する。

4 ミュート制御の対象となるチャンネルを選択する。



■ 端子に割り付ける機能一覧表

端子１～４に割り当てられる機能を下表にまとめます。

端子	すべてダイレクトモード
1	プリセット選択／音量調節／ミュート
2	プリセット選択／音量調節／ミュート
3	プリセット選択／音量調節／ミュート
4	プリセット選択／音量調節／ミュート
C	COM

端子	端子１～３がダイレクトモード	端子４がバイナリモード
1	音量調節／ミュート	ー
2	音量調節／ミュート	ー
3	音量調節／ミュート	ー
4	ー	プリセット選択
C	COM	COM

端子	端子１～２がダイレクトモード	端子３～４がバイナリモード
1	音量調節／ミュート	ー
2	音量調節／ミュート	ー
3	ー	プリセット選択
4	ー	プリセット選択
C	COM	COM

端子	端子１がダイレクトモード	端子２～４がバイナリモード
1	音量調節／ミュート	ー
2		プリセット選択
3	ー	プリセット選択
4	ー	プリセット選択
C	COM	COM

端子	すべてバイナリモード
1	プリセット選択
2	プリセット選択
3	プリセット選択
4	プリセット選択
C	COM

TOA

TOA お客様相談センター

商品の内容や組み合わせ、設置方法などについての技術的なお問い合わせにお応えします。
受付時間 9：00 ～ 17：00（土日、祝日除く）

フリーダイヤル **0120-108-117**
ナビダイヤル 0570-064-475（有料）
FAX 0570-017-108（有料）
※ PHS、IP 電話からはつながりません。

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、およびカタログのご請求については、取り扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

TOA ホームページ　http://www.toa.co.jp/

201302